

GA-K8VNX P

AMD Socket 754 プロセッサ マザーボード

ユーザマニュアル

Rev. 1001

12MJ-K8VNX P-1001

著作権

© 2003 GIGABYTE TECHNOLOGY CO., LTD

Copyright by GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD. (本書のいかなる部分も、GBT の書面による事前の許可なしには、いかなる形式でも複製または転送できません。)

商標

サードパーティのブランドと名前は、それぞれの所有者に帰属するものとします。

通告

マザーボードのラベルをはがさないでください。はがすと、本マザーボードの保証が無効になります。マザーボードの仕様は、将来予告なしに変更することがあります。著者は本書の誤りや脱落に対して責任を負うものではありません。また、情報の更新をお約束することはありません。

Declaration of Conformity

We, Manufacturer/Importer
(full address)

G.B.T. Technology Trading GmbH
Ausschläger Weg 41, 1F, 20537 Hamburg, Germany

declare that the product
(description of the apparatus, system, installation to which it refers)

Mother Board
GA-K8V/NXP

is in conformity with
(reference to the specification under which conformity is declared)
in accordance with 89/336 EEC-EMC Directive

☐ EN 55011	Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of industrial, scientific and medical (ISM) high frequency equipment	☐ EN 61000-3-2* ☒ EN 60555-2	Disturbances in supply systems cause by household appliances and similar electrical equipment "Harmonics"
☐ EN 55013	Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of broadcast receivers and associated equipment	☐ EN 61000-3-3* ☒ EN 60555-3	Disturbances in supply systems cause by household appliances and similar electrical equipment "Voltage fluctuations"
☐ EN 55014	Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of household electrical appliances, portable tools and similar electrical apparatus	☒ EN 50081-1 ☒ EN 50082-1	Generic emission standard Part 1: Residual commercial and light industry Generic immunity standard Part 1: Residual commercial and light industry
☐ EN 55015	Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of fluorescent lamps and luminaries	☐ EN 55081-2	Generic emission standard Part 2: Industrial environment
☐ EN 55020	Immunity from radio interference of broadcast receivers and associated equipment	☐ EN 55082-2	Generic emission standard Part 2: Industrial environment
☒ EN 55022	Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of information technology equipment	☐ ENV 55104	Immunity requirements for household appliances tools and similar apparatus
☐ DIN VDE 0855 ☐ part 10 ☐ part 12	Cabled distribution systems: Equipment for receiving and/or distribution from sound and television signals	☐ EN 50091-2	EMC requirements for uninterruptible power systems (UPS)



(EC conformity marking)

☒ CE marking

**The manufacturer also declares the conformity of above mentioned product
with the actual required safety standards in accordance with LVD 73/23 EEC**

☐ EN 60065	Safety requirements for mains operated electronic and related apparatus for household and similar general use	☐ EN 60950	Safety for information technology equipment including electrical business equipment
☐ EN 60335	Safety of household and similar electrical appliances	☐ EN 50091-1	General and Safety requirements for uninterruptible power systems (UPS)

Manufacturer/Importer

(Stamp)

Date : August 29, 2003

Signature:
Name:

Timmy Huang
Timmy Huang

DECLARATION OF CONFORMITY

Per FCC Part 2 Section 2.1077(a)



Responsible Party Name: G.B.T. INC. (U.S.A.)

Address: 17358 Railroad Street

City of Industry, CA 91748

Phone/Fax No: (818) 854-9338/ (818) 854-9339

hereby declares that the product

Product Name: Motherboard

Model Number: GA-K8VNX

Conforms to the following specifications:

FCC Part 15, Subpart B, Section 15.107(a) and Section 15.109
(a), Class B Digital Device

Supplementary Information:

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause harmful and (2) this device must accept any interference received, including that may cause undesired operation.

Representative Person's Name: ERIC LU

Signature: *Eric Lu*

Date: August 29, 2003



CAUTION

最初にお読みください!

AGP カードを取り付ける際は、次の注意事項を読んで完全に理解した上で行ってください。AGP カードに "AGP 4X/8X(1.5V) 溝" (下図参照) がある場合、お使いの AGP カードが AGP 4X/8X であることを確認してください。



注意: AGP 2X カードは VIA K8T800 によってサポートされていません。システムを標準起動できないという問題が発生する場合があります。AGP 4X/8X カードを挿入してください。

WARNING: Never run the processor without the heatsink properly and firmly attached.
PERMANENT DAMAGE WILL RESULT!

Mise en garde : Ne faites jamais tourner le processeur sans que le dissipateur de chaleur soit fixé correctement et fermement. UN DOMMAGE PERMANENT EN RÉSULTERA !

Achtung: Der Prozessor darf nur in Betrieb genommen werden, wenn der Wärmeableiter ordnungsgemäß und fest angebracht ist. DIES HAT EINEN PERMANENTEN SCHADEN ZUR FOLGE!

Advertencia: Nunca haga funcionar el procesador sin el dissipador de calor instalado correctamente y firmemente. ¡SE PRODUCIRÁ UN DAÑO PERMANENTE!

Aviso: Nunca execute o processador sem o dissipador de calor estar adequado e firmemente conectado. O RESULTADO SERÁ UM DANO PERMANENTE!

警告: 將散热器牢固地安裝到處理器上之前，不要運行處理器。過熱將永遠損壞處理器!

警告: 將散熱器牢固地安裝到處理器上之前，不要運行處理器。過熱將永遠損壞處理器!

경고: 히트싱크를 제대로 또 단단히 부착시키지 않은 채 프로세서를 구동시키지 마십시오. 영구적 고장이 발생합니다!

警告: 永久的な損傷を防ぐため、ヒートシンクを正しくしっかりと取り付けるまでは、プロセッサを動作させないようにしてください。

コンピュータを準備する...

コンピュータのマザーボードと拡張カードには非常に精巧な集積回路(IC)チップが搭載されています。静電気による損傷から保護するために、コンピュータを取り扱う際には常に以下の注意事項に従う必要があります。

1. コンピュータの内部を操作するときは、コンピュータのプラグを抜いてください。
2. コンピュータのコンポーネントを処理する前に、アースされたリストストラップを使用してください。お持ちでない場合は、安全にアースされた物体またはまたは電源装置のケースなどの、金属の物体に両手を触れてください。
3. コンポーネントの端をつかみ、ICチップ、リード線やコネクタ、またはその他のコンポーネントに触れないようにしてください。
4. コンポーネントをシステムから離すとき、コンポーネントは必ず、アースされた静電気防止パッドやコンポーネントに付属するバッグの上に置いてください。
5. ATXの電源コネクタをマザーボードに取り付ける時、または取り外す時は、ATX電源装置の電源がオフになっていることを確認してください。

マザーボードをシャーシに取り付ける...

マザーボードにマウンティングホールが付いているのに、台の穴に並んでいない場合や、スペーサーに取り付けるスロットがない場合でも、心配する必要はありません。スペーサーの下部を切り取るだけで、スペーサーをマウンティングホールに取り付けることができます(スペーサーは堅いので、手を傷つけないように注意してください)。こうすることで、ショートを起こすことなくマザーボードを台に取り付けることができます。マザーボードのPCB面からネジを外す時、回路線が穴の近くにあるため、プラスチックのばねを使用する必要があります。ネジが固定穴の近くにあるPCB上の印刷回路や部品に触れないように注意してください。ボードを破損したり、ボードの誤動作を引き起こしたりすることがあります。

目次

最初にお読みください!	4
第1章 はじめに	8
アイテムのチェックリスト	8
機能のまとめ	8
GA-K8VNXPMザーボードのレイアウト	11
ブロック図	12
第2章 ハードウェアの取り付けプロセス	15
ステップ1: 中央演算処理装置(CPU)の取り付け	16
ステップ2: メモリモジュールの取り付け	18
ステップ3: 拡張カードの取り付け	20
ステップ3-1: AGPカードの取り付け	20
ステップ3-2: K8 DPS (デュアルパワーシステム)の取り付け	21
ステップ4: リボンケーブル、キャビネットワイヤ、電源装置の接続	22
ステップ4-1: I/O背面パネルの概要	22
ステップ4-2: コネクタの概要	24
第3章 BIOSのセットアップ	39
メインメニュー(例: BIOS Ver. : F1a)	40
標準CMOS機能	42
拡張BIOS機能	45
統合周辺装置	47
電源管理のセットアップ	52
PnP/PCI設定	55

PCヘルスステータス	56
周波数/電圧コントロール	57
ロードフェールセーフデフォルト	59
ロード最適化デフォルト	60
管理者/ユーザーパスワードの設定	61
セットアップを保存して終了	62
保存しないで終了	63
 第4第 テクニカルリファレンス	65
@BIOS™ 概要	65
EasyTune™ 4概要	66
K8DPS (デュアルパワーシステム)概要	67
フラッシュBIOS方式の概要	68
2/4/6チャンネルオーディオ機能の概要	78
Jack-Sensingの概要	84
UAJの概要	86
Xpress Recoveryの概要	88
 第5章 付録	93

第1章 はじめに

アイテムのチェックリスト

- | | |
|--|--|
| ☒ GA-K8VNXマザーボード | ☒ IDEケーブルx3/フロッピーケーブルx1 |
| ☒ マザーボードドライバ&ユーティリティ用CD | ☒ シリアルATAケーブルx1 |
| ☒ GA-K8VNXユーザーズマニュアル | ☒ シリアルATA電源ケーブルx1 |
| ☒ クイックPCインストールガイド | ☒ USB + IEEE1394ケーブルx1 |
| ☒ GigaRAIDマニュアル | ☒ オーディオコンボキットx1
(サラウンドキット + SPDIF出力キット) |
| ☒ GC-SATAカード(オプション)
(マニュアル; SATAケーブルx1; 電源ケーブルx1) | ☒ I/Oシールド |
| | ☒ K8DPS x 1 |
| | ☒ マザーボード設定ラベル |

機能のまとめ

フォームファクタ	30.5cm x 24.4cm ATXサイズのフォームファクタ, 4層PCB
CPU	- Socket 754 for AMD Athlon™ 64プロセッサ(K8)128KL1&256KL1/512KL1 / 1M L2キャッシュオンダイ 800MHz FSB 1.6 GHz(2800+)以上の速度のコア周波数をサポート
チップセット	- VIA K8T800 H.T. Bus/AGP/VLINKコントローラ - VIA VT8237統合周辺装置コントローラ(PSIPC)
メモリ	3 184ピンDDR DIMMソケット - DDR400/333/266/200 DIMMをサポート 128MB/256MB/512MB/1GBバッファなしDRAMをサポート 3GB DRAM (最大)をサポート 2.5V DDR DIMMのみをサポート
I/Oコントロール	IT8705
スロット	1 AGPスロットが8X/4Xモードをサポート, 533MHzでAGP3.0 8Xインターフェイス 5 PCISロットが33MHz & PCI 2.2準拠をサポート
オンボードIDE	2つのIDEコントローラがIDE HDD/CD-ROM (IDE1, IDE2)にPIO、バスマスタ(DMA33/ATA66/ATA100/ATA133)操作モードを提供 - RAID, Ultra ATA133/100、IDE内臓GigaRAID IT8212Fと互換性のあるIDE3とIDE4

続く...

シリアルATA	• 150 MB/秒の操作モードで2つのシリアルATA接続 • 内蔵VIA VT8237
オンボード周辺装置	• 1つのフロッピーポートが360K、720K、1.2M、1.44M、2.88Mバイトの2つのFDDをサポート • 1つのパラレルポートが標準/EPP/ECPモードをサポート • 2つのシリアルポート(COMA & COMB) • 8 x USB 2.0/1.1ポート(ケーブルで4) • 3 x IEEE1394ポート(ケーブルによる) • IR用IrDAコネクタ(x 1) • フロントオーディオコネクタ(x 1)
ハードウェアモニタ	• CPU/システムファン回転の検出 • CPU温度の検出 • システム電圧の検出 • CPU/システムファンエラーの検出 • CPUスマートファンコントロール • 熱遮断機能
オンボードLAN	• 内蔵RTL8110S (10/100/1000 Mbit)(LAN1) • 内蔵RTL8201BL (10/100 Mbit)(LAN2) • RJ45ポート(x2)
オンボードサウンド	• ALC658 CODEC (UAJ) • Jack Sensing機能をサポート • ライン出力/前面スピーカー x2 • ライン入力/背面スピーカー x2(s/wスイッチによる) • マイク入力/中央&サブウーファ(s/wスイッチによる) • SPDIF入力/出力 • CD入力/AUX入力/ゲームポート
オンボードSATA RAID	• 内蔵VIA VT8237 • ディスクストライピング(RAID 0)またはディスクミラーリング(RAID 1)をサポート • 最大150 MB/秒のUDMAをサポート • 最大2つのSATAデバイス

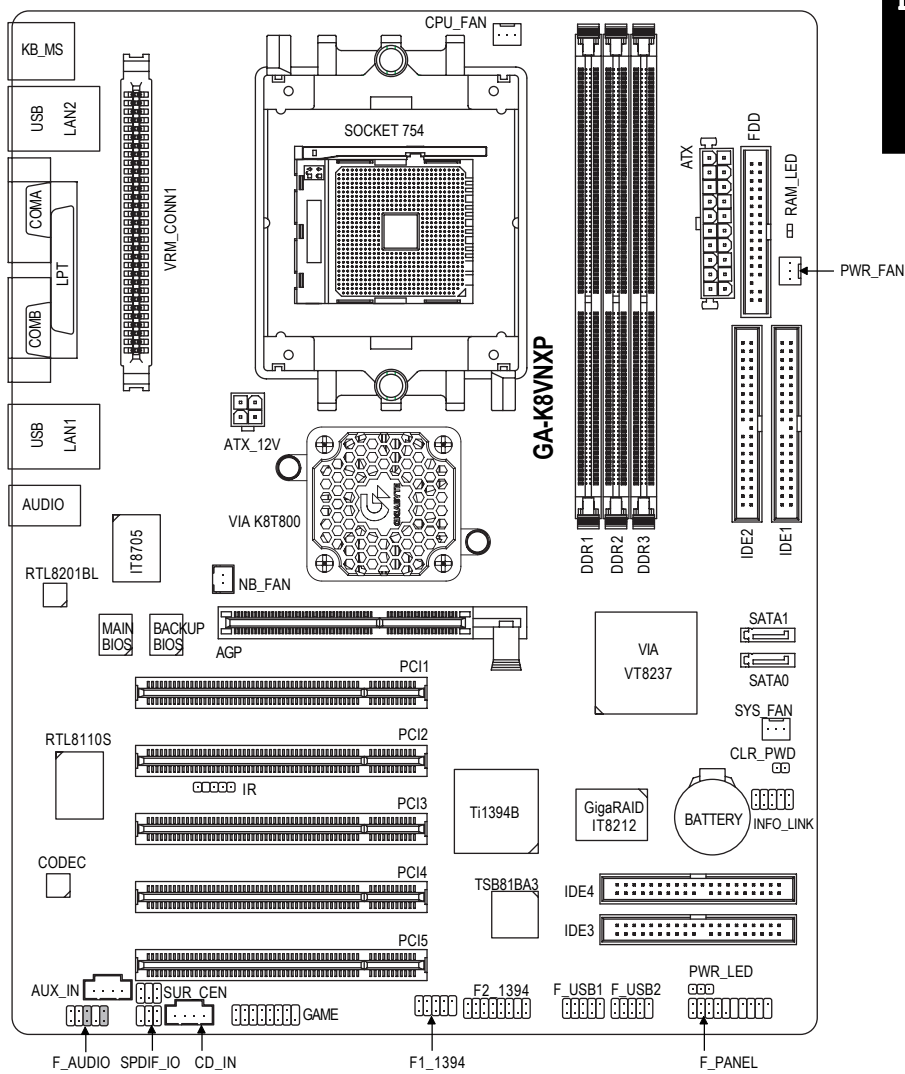
続く...

オンボードIDE RAID	• オンボードGigaRAID IT8212Fチップセット • データストライピング (RAID 0) またはミラリング (RAID 1) またはストライピング+ミラリング (RAID 0 + RAID 1) をサポート • JBOD機能をサポート • 並行デュアルATA133 IDEコントローラの操作をサポート • HDD用ATAPIモードをサポート • IDEバスマスタリング操作をサポート • BIOSによるATA133/RAIDモードスイッチをサポート • 起動時にステータスとエラーチェックメッセージを表示 • ミラリングが自動バックグラウンドリビルドをサポート • コントローラオンボードBIOSにLBAと拡張割り込み13ドライブ変換機能
オンボードIEEE1394	• 内蔵Ti1394B
PS/2コネクタ	• PS/2キーボードインターフェイスおよびPS/2マウスインターフェイス
BIOS	• ライセンスを取得したAWARD BIOS • デュアルBIOSをサポート • Face Wizardをサポート • Q-Flashをサポート
追加機能	• CPUデュアルパワーシステム(DPS)をサポート • PS/2キーボードパスワードの電源オン • PS/2マウスの電源オン • STR(サスペンドトウRAM) • AC回復 • S3からUSBキーボード/マウスの呼び起こし • キーボードの過電流保護用ポリフューズ • 熱遮断機能をサポート • @BIOSをサポート • EasyTune 4をサポート
オーバークロッキング	• BIOSによる過電圧(CPU/DDR/AGP) • BIOSによるオーバークロック(CPU/DDR/AGP)

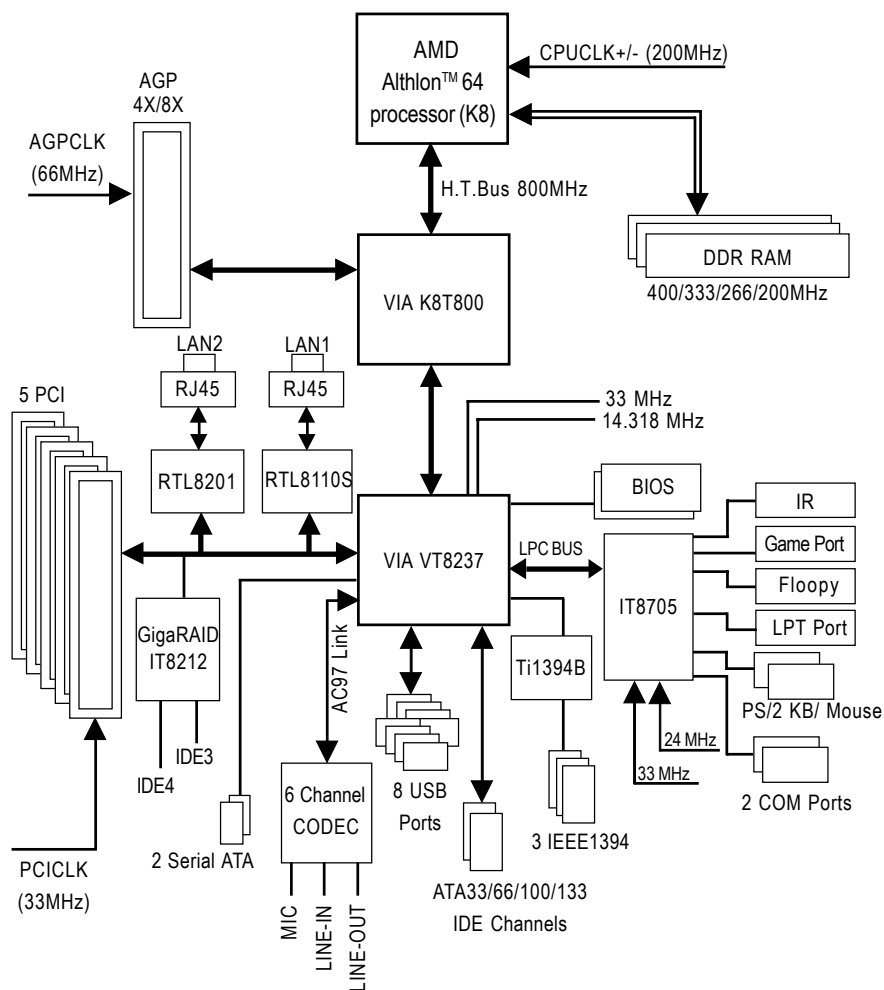


プロセッサの仕様に従ってCPUホストの周波数を設定してください。CPU仕様を超えてシステムバスの周波数を設定することはお勧めしません。これらの特定のバス周波数はCPU、チップセットおよびほとんどの周辺機器にとって標準仕様ではないからです。お使いのシステムがこれらの特定のバス周波数で適切に動作できるかどうかは、CPU、チップセット、SDRAM、カードなどのハードウェア構成によって決まります。

GA-K8VNX P マザーボードのレイアウト



ブロック図



日本語

- 13 -

はじめに

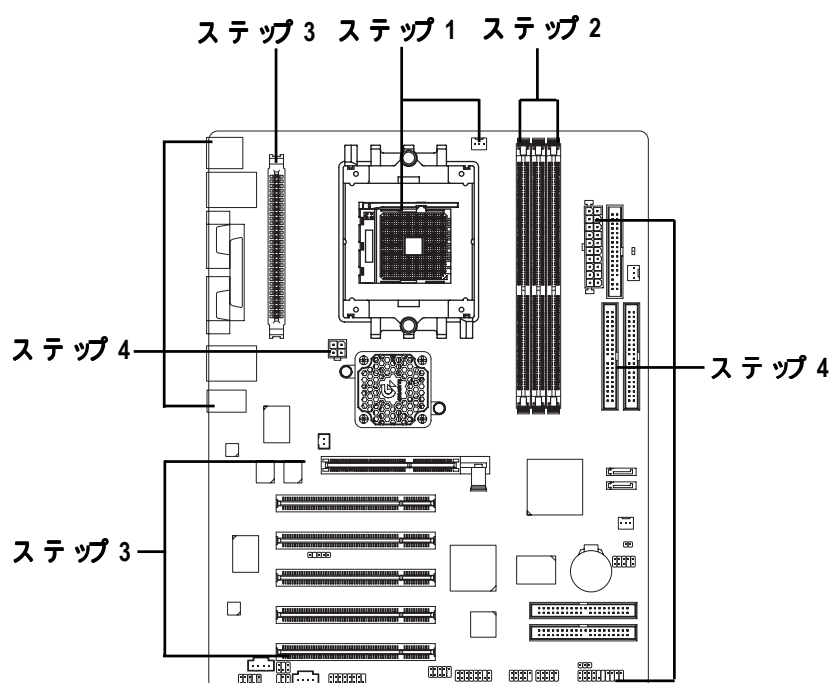
日本語

[illegible]

第2章 ハードウェアの取り付けプロセス

お使いのコンピュータをセットアップするには、次の手順を完了する必要があります。

- ステップ1-中央演算処理装置(CPU)の取り付け
- ステップ2-メモリモジュールの取り付け
- ステップ3-拡張カードの取り付け
- ステップ4-リボンケーブル、キャビネットワイヤ、電源装置の接続



お疲れ様でした、ハードウェアの取り付けが完了しました!
電源装置をオンにするか、電源ケーブルをコンセントに接続してください。続いて、BIOS/ソフトウェアのインストールを行います。

ステップ1: 中央演算処理装置(CPU)の取り付け

プロセッサと冷却ファンを取り付ける前に、次の警告に従ってください。



1. ヒートシンクとファンがなければ、プロセッサは過熱し、完全に、修復不可能なほどの損傷を被ります。
2. プロセッサをソケットに無理に差し込まないでください。
3. プロセッサと冷却ファンの間に熱グリースを塗ってください。
4. CPUのタイプがマザーボードによってサポートされていることを確認してください。
5. CPUのソケットピン1とCPUのカットエッジが合わなければ、取り付けはうまくいきません。挿入方向を変えてください。AMD公認の冷却ファンを使用してください。

プロセッサと冷却ファンの取り付けは4つの主要なステップで行われます。

ステップ1-1. プロセッサの挿入

ステップ1-2. 熱グリースの塗布

ステップ1-3. 冷却ファンの装着

ステップ1-4. プロセッサファンの電源の接続

ステップ1-1. まず、プロセッサのピンが曲がっていないことを確認します。プロセッサを挿入する前に、図1 と図2 が示すように、ソケットレバーをロックされていない位置(マザーボードの面に対して90°)に動かします。A1ピンの位置は銅の三角形によりプロセッサ上で、図3で示したソケットの三角形に一致するように指定されています。プロセッサをソケットに一直線に合わせ、所定の位置にくるまでゆっくりと下げます。無理に力を加えてソケットに入れないでください。

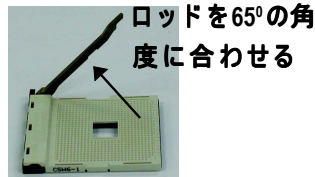


図1. ロッドは65度の角度までは少し固く感じるかもしれませんが、そのまま90度までロッドを引くと「コツン」という音がします。

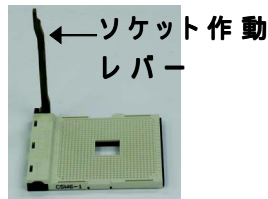


図2. ロッドを90度までまっすぐ引きます。

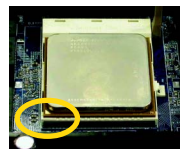


図3. ソケットとプロセッサ上のA1ピンの位置。プロセッサの中心を押しながら、ソケットレバーをロックされた位置に移動します。

- ステップ1-2. プロセッサをソケットに取り付けたら、ヒートシンクを取り付ける前に、(図4で示すように)プロセッサに熱グリースを塗ります。AMD では、熱インターフェイス素材として、相変化素材より高い熱伝導率のグリース(例: シンエツタイプのG751や G749、または同等品)を使用するようにお勧めします。相変化素材は、ヒートシンクとプロセッサの間に強い接着力をもたらします。**かかる条件下でヒートシンクを取り外すと、ソケットレバーがロックされていない位置に移動することなくソケットからプロセッサが外れ、その結果プロセッサのピンやソケットの接点が損傷することになります。**
**CPUとヒートシンクの間の熱伝導をよくするために感熱テープを貼ることをお勧めします(CPU 冷却ファンは感熱糊の硬化によってCPU にしっかりくっついてしまうことがあります。このとき冷却ファンを取り外そうとすると、CPU ソケットから冷却ファンとともにプロセッサが外れ、そのためプロセッサが損傷することがあります。これを防ぐために、感熱糊の代わりに感熱テープを使うか、細心の注意を払って冷却ファンを取り外すようお勧めします)。



図4. 感熱糊をプロセッサに塗る

- ステップ1-3. 熱グリースをプロセッサに塗ると、ヒートシンクをプロセッサに取り付けることができます。ヒートシンクアセンブリを、図 5&6 で示すように支持プレートの支柱と対になるサポートフレームに一直線に合わせます。

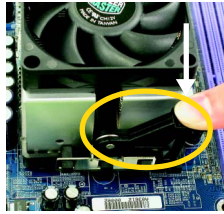
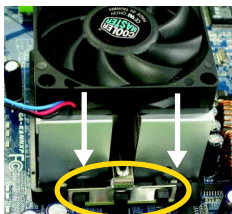


図 5&6. ヒートシンクアセンブリと支柱の位置合わせ

- ステップ1-4. ファンの電源ワイヤを、図7で示すようにマザーボードのヘッダに接続します。

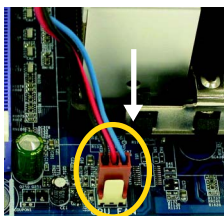


図7. ファンの電源ワイヤを接続する

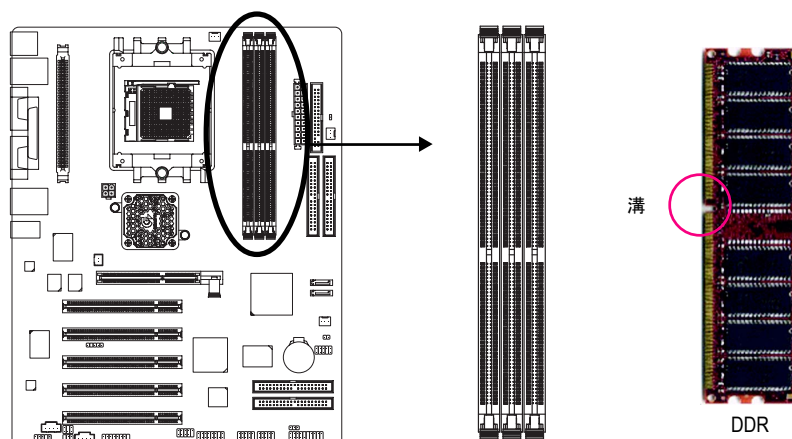
ステップ2：メモリモジュールの取り付け



メモリモジュールを取り付ける前に、次の警告に従ってください。

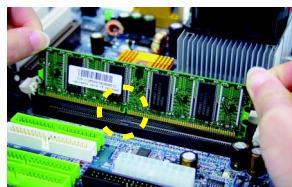
1. DIMM LEDがオンになっているとき、ソケットとDIMMの取り付けや取り外しは行わないでください。
2. 溝は1 つしかないため、DIMM モジュールは一方向にしかフィットしません。方向を間違えると、取り付けはうまくいきません。挿入する方向を変えてください。

マザーボードには3つのデュアルインラインメモリモジュール(DIMM)ソケットが搭載されています。BIOSはメモリの種類とサイズを自動的に検出します。メモリモジュールを取り付ける際は、メモリをDIMMスロットに垂直に差し込んでください。DIMMモジュールには溝があるため、一方向にしかフィットしません。メモリサイズはソケットごとに異なります。



チップ選択ごとの総メモリサイズ

DIMMで使用するデバイス	CSごとのサイズ	コメント
64 Mビット(2Mx8ビットx4バンク)	64 Mバイト	
64 Mビット(1Mx16ビットx4バンク)	32 Mバイト	
128 Mビット(4Mx8ビットx4バンク)	128 Mバイト	
128 Mビット(2Mx16ビットx4バンク)	64 Mバイト	
256 Mビット(8Mx8ビットx4バンク)	256 Mバイト	
256 Mビット(4Mx16x4バンク)	128 Mバイト	
512 Mビット(16Mx8ビットx4バンク)	512 Mバイト	
512 Mビット(8Mx16ビットx4バンク)	256 Mバイト	
1Gビット(32Mx8ビットx4バンク)	1G バイト	
1Gビット(16Mx16ビットx4バンク)	512 Mバイト	



1. DIMMソケットには溝があるので、DIMMメモリモジュールは一方方向にしかフィットしません。



2. DIMMメモリモジュールをDIMMソケットに垂直に差し込み、押し下げます。



3. DIMMソケットの両端のプラスチック製クリップを閉じてDIMMモジュールをロックします。DIMMモジュールを取り外す時は、取り付け手順を逆に行ってください。

DDRについて

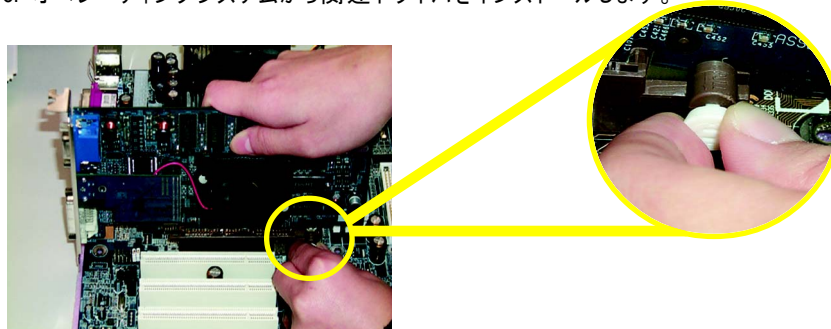
既存のSDRAM工業インフラをもとに開発されたDDR (Double Data Rate: ダブルデータレート)メモリは、メモリ販売店、OEM、システムインテグレータなどの間ではハイパフォーマンスで低コストなソリューションといえます。

DDRメモリは、既存のSDRAMアーキテクチャに構築することができ、さらにメモリの帯域幅を倍増することによりシステムパフォーマンスのネックを解消することができるという、PC業界の中では賢明な革新ソリューションです。今日、3.2GB/秒という最大帯域幅を持つDDR400メモリと完全なラインのDDR400/333/266/200メモリソリューションにより、DDRメモリはハイパフォーマンスおよび低遅延DRAMサブシステムを構築するには最適の選択肢で、サーバー、ワークステーション、スクトップPCの完全なラインなどに適用することができます。

ステップ3：拡張カードの取り付け

ステップ3-1：AGPカードの取り付け

1. 拡張カードをコンピュータに取り付ける前に、関連する拡張カードの指示マニュアルをお読みください。
2. コンピュータからコンピュータのシャーシカバー、ネジ、スロットブラケットを取り外してください。
3. 拡張カードをマザーボードの拡張スロットにしっかり押し込んでください。
4. カードの金属接合部がスロットにしっかり取り付けられていることを確認してください。
5. ネジを元に戻して拡張カードのスロットブラケットをしっかり締めてください。
6. コンピュータのシャーシカバーを元に戻します。
7. コンピュータの電源を入れます。必要に応じて、BIOSから拡張カードのBIOSユーティリティを設定します。
8. オペレーティングシステムから関連ドライバをインストールします。



AGPカード

AGPカードを取り付けたり取り外す時は、AGPスロットの端にある小さな白いバーを注意して引き抜いてください。AGPカードをオンボードのAGPスロットに一直線になるように合わせ、スロットにしっかりと押し込みます。AGPカードが小さな白いバーによってロックされていることを確認してください。

ステップ3-2: K8 DPS (デュアルパワーシステム)の取り付け

K8 DPSとは?

K8 DPS (デュアルパワーシステム)は、デュアルパワーシステム機能を提供できるドーターカードです。合計6フェーズの電源回路設計を供給する、クールで、ハイセンスなネオンプルーのK8DPSは新世代のマザーボードに耐久力のある電源設計を実現しています。

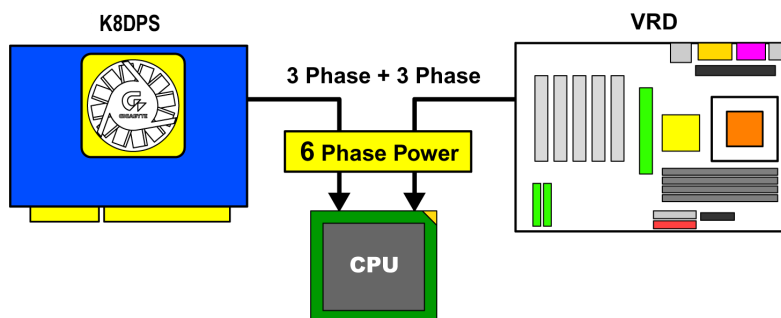


K8DPSはデュアルパワーシステムで動作します。

- ・ パラレルモード:
K8DPSとマザーボードCPU電源は同時に動作して、合計で6フェーズの電源回路を提供します。

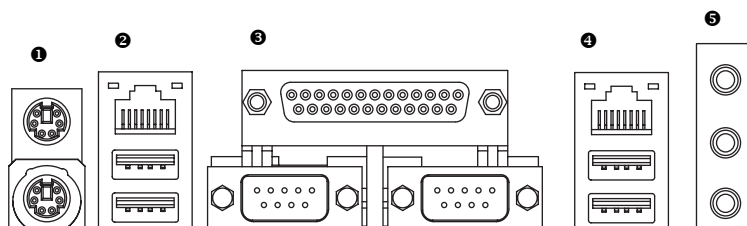
K8DPSの取り付け方法

1. K8DPSコネクタには溝があるため、K8DPSは一方向にしかフィットしません。
2. K8DPSをソケットに垂直に差し込み、押し下げます。
3. K8DPSをクリップでマザーボードに固定します。
4. K8DPSを取り外す時は、取り付け手順を逆に行ってください。



ステップ4：リボンケーブル、キャビネットワイヤ、電源装置の接続

ステップ4-1: I/O背面パネルの概要



❶ PS/2キーボードとPS/2マウスコネクタ

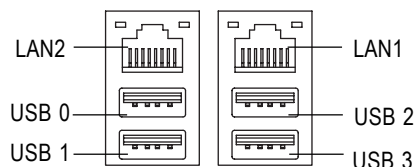


PS/2マウスコネクタ
(6ピンメス)

PS/2キーボードコネクタ
(6ピンメス)

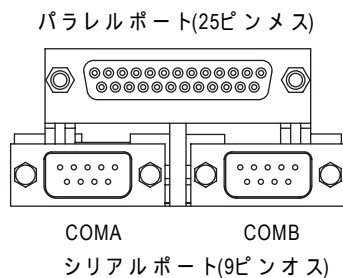
➤ このコネクタは標準のPS/2キーボードとPS/2マウスをサポートします。

❷/❸ USB/LAN Connector



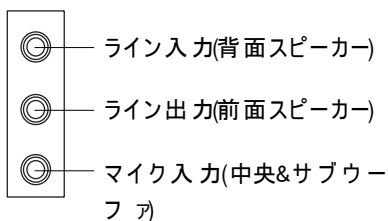
- お使いのデバイスをUSBコネクタに接続する前に、USBキーボード、マウス、スキャナ、Zip、スピーカーなどのデバイスが標準のUSBインターフェイスを搭載していることを確認してください。また、お使いのOSがUSBコントローラをサポートしていることも確認してください。OSがUSBコントローラをサポートしていない場合、OSベンダーに連絡してパッチやドライバのアップグレードを入手してください。詳細については、OSまたはデバイスベンダーにお問い合わせください。
- LAN1コネクタは10/100/1000Mbpsの速度を出すファーストイーサネットです。
- LAN2コネクタは10/100Mbpsの速度を出すファーストイーサネットです。

⑤ パラレルポート、シリアルポート(COMA / COMB)



➤ このコネクタは2つの標準COMポートと1つのパラレルポートをサポートしています。プリンタのようなデバイスはパラレルポートに、マウスやモデムなどのようなデバイスはシリアルポートに接続できます。

⑥ オーディオコネクタ



➤ オンボードオーディオドライバをインストールした後に、スピーカーをライン出力ジャックに、マイクをマイク入力ジャックに接続する必要があります。CD-ROMやウォークマンなどのデバイスは、ライン入力ジャックに接続することができます。

注意:

SW選択で2-/4-/6-チャンネルオーディオ機能を使用することができます。6チャンネル機能を有効にするには、次の2通りのハードウェア接続から選択します。

方式1:

"前面スピーカー"を"ライン出力"に接続
"背面スピーカー"を"ライン入力"に接続
"中央&サブウーファ"を"マイク出力"に接続。

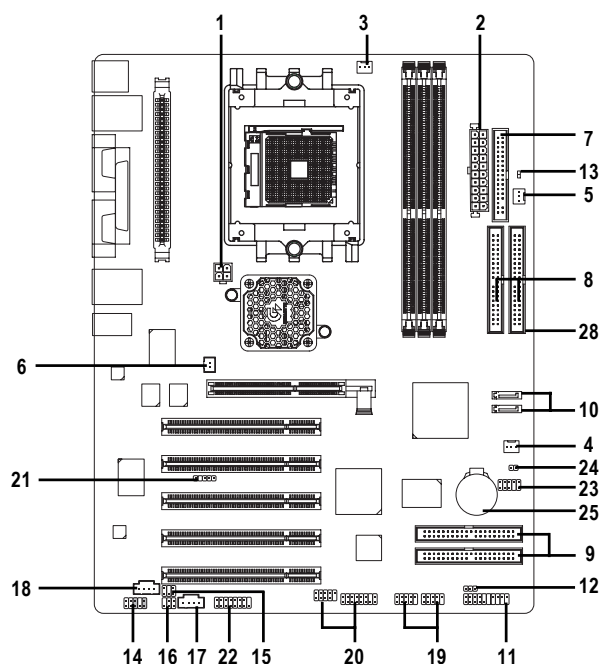
方式2:

32ページを参照してください。オプションのSUR_CENケーブルはお近くの専門店で求めください。



2-/4-/6-チャンネルオーディオ設定の詳細については、78ページをご覧ください。

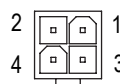
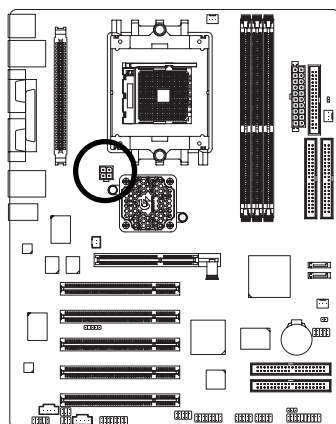
ステップ4-2: コネクタの概要



1) ATX_12V	14) F_AUDIO
2) ATX (Power Connector)	15) SUR_CEN
3) CPU_FAN	16) SPDIF_IO
4) SYS_FAN	17) CD_IN
5) PWR_FAN	18) AUX_IN
6) NB_FAN	19) F_USB1 / F_USB2
7) FDD	20) F1_1394 / F2_1394
8) IDE1 / IDE2	21) IR
9) IDE3 / IDE4	22) GAME
10) SATA0 / SATA1	23) INFO_LINK
11) F_PANEL	24) CLR_PWD
12) PWR_LED	25) BAT
13) RAM_LED	

1) ATX_12V (+12V電源コネクタ)

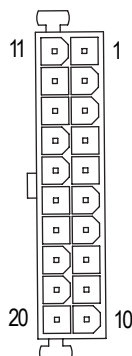
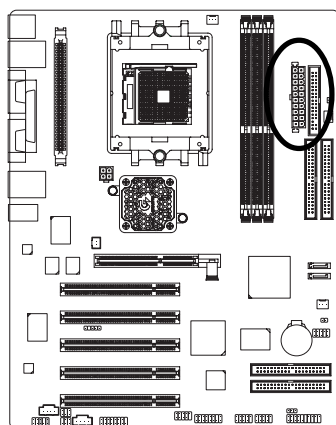
このコネクタ(ATX_12V)はCPU動作電圧(Vcore)をサポートします。
この"ATX_12Vコネクタ"が接続されていないと、システムは起動できません。



ピン番号	定義
1	GND
2	GND
3	+12V
4	+12V

2) ATX (ATX電源コネクタ)

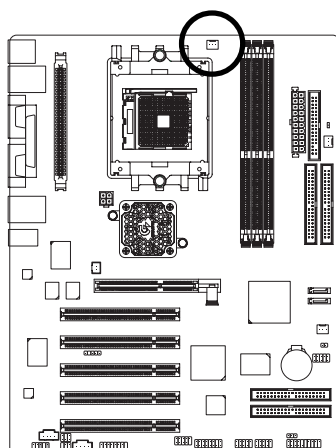
ATX電源ケーブルとその他の関連デバイスをマザーボードにしっかり接続した後、AC電源コードを電源装置にのみ接続する必要があります。



ピン番号	定義
1	3.3V
2	3.3V
3	GND
4	VCC
5	GND
6	VCC
7	GND
8	電源良好
9	5V SB (スタンバイ+5V)
10	+12V
11	3.3V
12	-12V
13	GND
14	PS_ON(ソフトオン/オフ)
15	GND
16	GND
17	GND
18	-5V
19	VCC
20	VCC

3) CPU_FAN (CPUファンコネクタ)

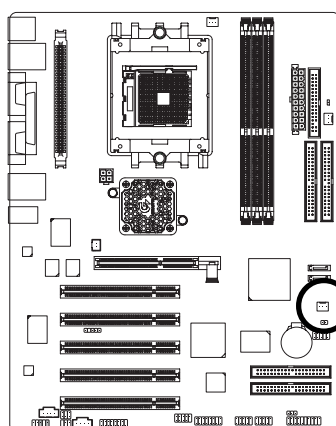
CPUがコントロール不能に陥ったり過熱により損傷しないよう、CPUクーラーの正しい取り付けは不可欠です。CPUファンコネクタは最大600 mAまでサポートします。



ピン番号	定義
1	GND
2	+12V
3	センス

4) SYS_FAN (システムファンコネクタ)

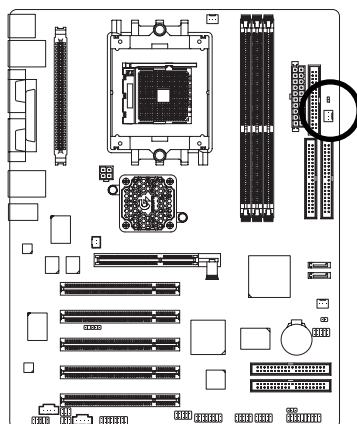
このコネクタでは、システムケースに冷却ファンを取り付け、システムの温度を下げるすることができます。



ピン番号	定義
1	GND
2	+12V
3	センス

5) PWR_FAN (電源ファンコネクタ)

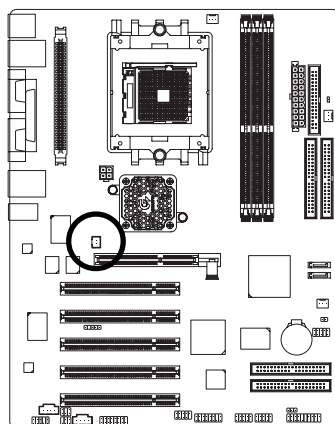
このコネクタでは、システムケースに冷却ファンを取り付け、システムの温度を下げるができます。



ピン番号	定義
1	GND
2	+12V
3	NC

6) NB_FAN (チップファンコネクタ)

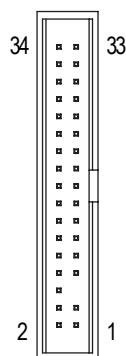
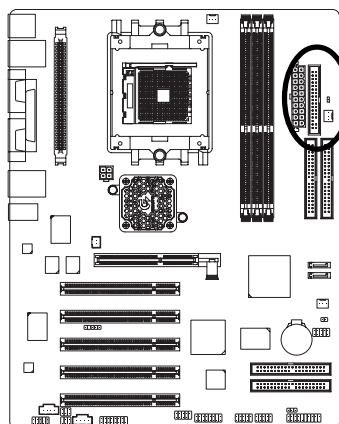
間違った方向に取り付けると、チップファンは作動しません。チップファンが損傷することも時にはあります(普通、黒いケーブルはアース用です)。



ピン番号	定義
1	VCC
2	GND

7) FDD (フロッピーコネクタ)

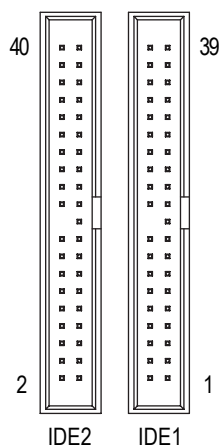
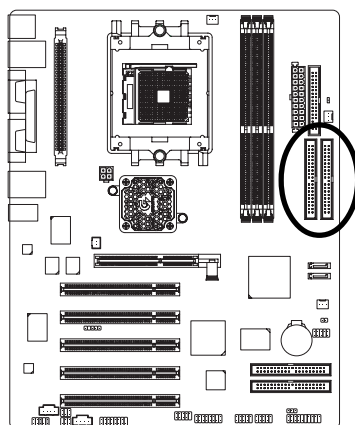
フロッピードライブのリボンケーブルをFDDに接続してください。360K、720K、1.2M、1.44M、2.88Mバイトのフロッピーディスクタイプに対応しています。
リボンケーブルの赤いストライプはピン1と同じ側に合わせてください。



8) IDE1 / IDE2 (IDE1 / IDE2コネクタ)

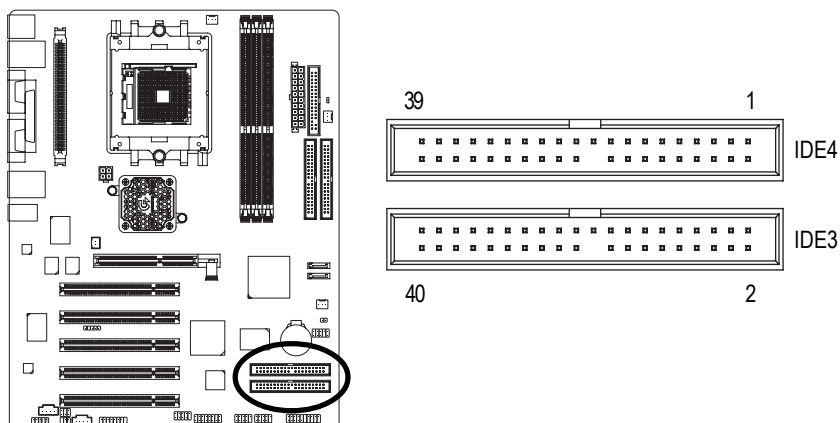
重要な通告:

第1ハードディスクをIDE1に接続し、CD-ROMをIDE2に接続してください。
リボンケーブルの赤いストライプはピン1と同じ側に合わせてください。



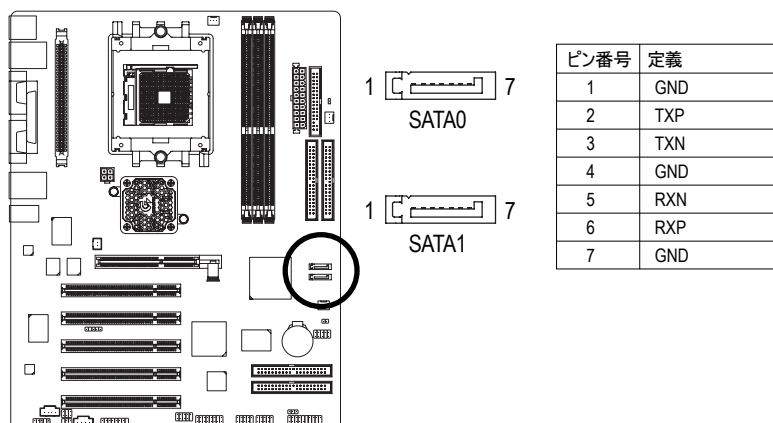
9) IDE3 / IDE4 (RAID/ATA133、緑のコネクタ)

重要な通告: リボンケーブルの赤いストライプはピン1と同じ側に合わせてください。IDE3とIDE4を使用する場合、BIOS (RAIDまたはATA133)と共に使用してください。次に、正しい操作を確保するために適切なドライバをインストールします。詳細については、GigaRAIDマニュアルを参照してください。



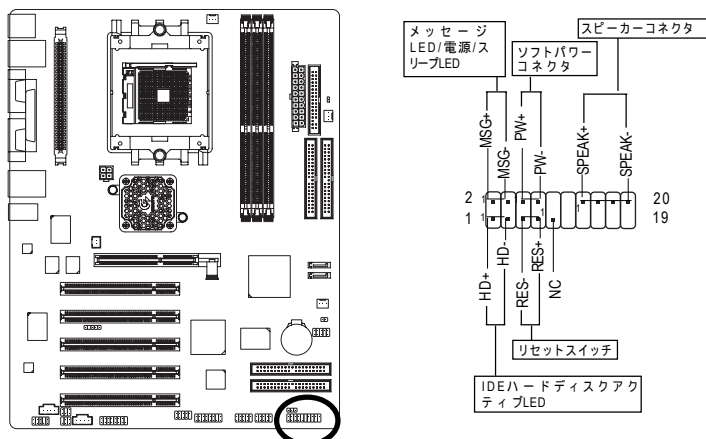
10) SATA0 / SATA1 (シリアルATAコネクタ)

シリアルATAデバイスをこのコネクタに接続すると、高い転送速度が得られます (150MB/秒)。RAID機能を使用するには、BIOSと共に使用し、正しい動作を確保するために適切なドライバをインストールしてください。



11) F_PANEL (2 x 10ピンコネクタ)

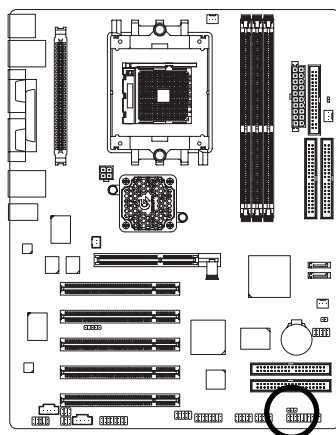
上のピン割り当てに従って、シャーシ前面パネルの電源LED、PCスピーカー、リセットスイッチ、電源スイッチなどをF_PANELコネクタに接続してください。



HD (IDEハードディスクアクティブLED) (青)	ピン1: LED陽極(+) ピン2: LED陰極(-)
SPK (スピーカーコネクタ) (アンバー)	ピン1: VCC(+) ピン2-ピン3: NC ピン4: データ(-)
RES (リセットスイッチ) (緑)	開く: 標準操作 閉じる: ハードウェアシステムの リセット
PW (ソフト電源コネクタ) (赤)	開く: 標準操作 閉じる: 電源オン/オフ
MSG (メッセージLED/電源/スリープLED) (黄色)	ピン1: LED陽極(+) ピン2: LED陰極(-)
NC (紫)	NC

12) PWR_LED

PWR_LEDをシステムの電源インジケータに接続すると、システムのオン/オフ状態が表示されます。システムがサスペンドモードに入ると点滅します。デュアルカラーLEDを使用しているとき、電源LEDは他の色に変わります。

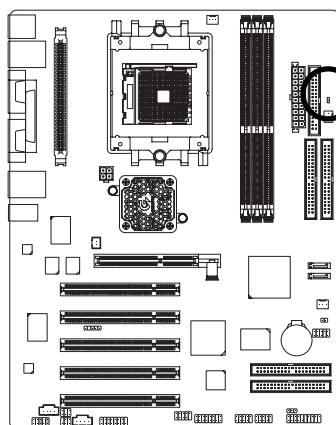


1

ピン番号	定義
1	MPD+
2	MPD-
3	MPD-

13) RAM_LED

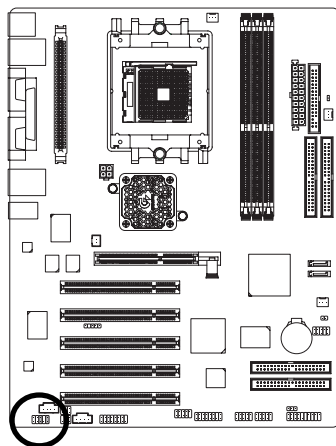
RAM LEDがオンになっている間、メモリモジュールを取り外さないでください。スタンバイ電圧により、ショートしたり予期せぬ損傷をこうむることがあります。メモリモジュールの取り外しは、AC電源コードを接続していないときのみ行えます。



+

14) F_AUDIO (前面オーディオコネクタ)

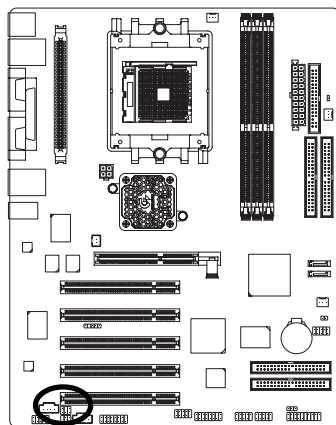
前面オーディオコネクタを使用する場合は、5-6、9-10ジャンパを取り外してください。前面オーディオヘッダを使用するには、シャーシに前面オーディオコネクタが搭載されている必要があります。ケーブルのピン割り当てがマザーボードヘッダのピン割り当てと同様であることを確認してください。お買い上げのシャーシが前面オーディオコネクタに対応しているかどうかを確認するには、販売店へお問い合わせください。前面オーディオコネクタ、または背面オーディオコネクタを使ってサウンドを再生することもできます。



ピン番号	定義
1	MIC
2	GND
3	REF
4	電源
5	前面オーディオ(R)
6	背面オーディオ(R)
7	未使用
8	ピンなし
9	前面オーディオ(L)
10	背面オーディオ(L)

15) SUR_CEN (サラウンド中央コネクタ)

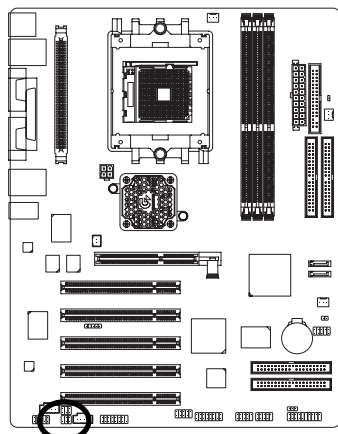
オプションのSUR_CENケーブルについては、最寄りの販売店にお問い合わせください。



ピン番号	定義
1	SUR OUTL
2	SUR OUTR
3	GND
4	ピンなし
5	CENTER_OUT
6	BASS_OUT

16) SPDIF_IO (SPDIF入力/出力コネクタ)

SPDIF出力は外部スピーカーにデジタルオーディオを提供したり、外部Dolbyデジタルデコーダに圧縮AC3データを提供することができます。この機能は、ステレオシステムにデジタル入力機能がある場合のみ使用できます。SPDIF_IOコネクタの極性に注意してください。SPDIF_IOケーブルを接続している間ピン割り当てを慎重にチェックしてください。ケーブルとコネクタの接続を間違えると、デバイスが作動しなかったり、場合によっては破損することもあります。オプションのSPDIF_IOケーブルについては、お近くの販売店にお問い合わせください。

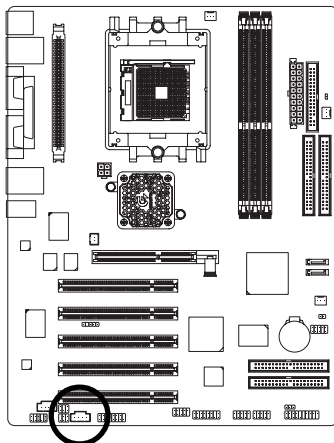


2 6
1 5

ピン番号	定義
1	VCC
2	ピンなし
3	SPDIF
4	SPDIF
5	GND
6	GND

17) CD_IN (CD入力コネクタ)

CD-ROMまたはDVD-ROMオーディオ出力をコネクタに接続します。

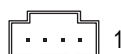
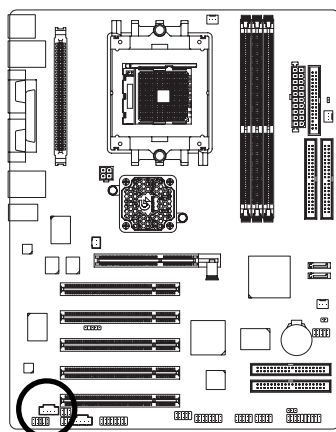


1

ピン番号	定義
1	CD-L
2	GND
3	GND
4	CD-R

18) AUX_IN (AUX入 カコネクタ)

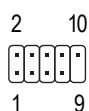
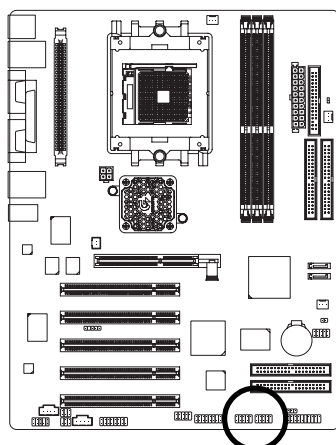
その他のデバイス(PCI TVチューナーオーディオ出力など)をこのコネクタに接続します。



ピン番号	定義
1	AUX-L
2	GND
3	GND
4	AUX-R

19) F_USB1 / F_USB2 (前面USBコネクタ)

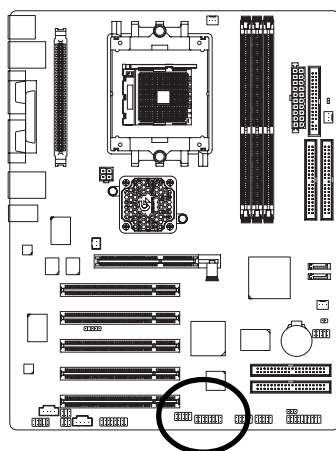
前面USBコネクタの極性にご注意ください。前面USBケーブルを接続している間ピン割り当てを教えてください。ケーブルとコネクタの接続を間違えると、デバイスが作動しなかったり、場合によっては損傷することもあります。オプションの前面USBケーブルについては、お近くの販売店にお問い合わせください。



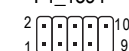
ピン番号	定義
1	電源
2	電源
3	USB Dx-
4	USB Dy-
5	USB Dx+
6	USB Dy+
7	GND
8	GND
9	ピンなし
10	NC

20) F1_1394 / F2_1394 (前面IEEE1394コネクタ)

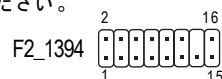
シリアルインターフェイスの標準は高速高いバンド幅ホットプラグのような特徴を持ち、電気的、エレクトロニクスエンジニア研究所によって定められています。IEEE1394コネクタの極性にご注意ください。IEEE1394ケーブルを接続している間ピン割り当てを慎重にチェックしてください。ケーブルとコネクタの接続を間違えると、デバイスが作動しなかったり、場合によっては破損することもあります。オプションのIEEE1394ケーブルについては、お近くの販売店にお問い合わせください。



F1_1394



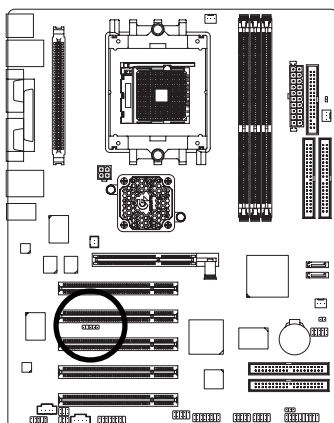
ピン番号	定義
1	TPA2+
2	TPA2-
3	GND
4	GND
5	TPB2+
6	TPB2-
7	電源
8	電源
9	ピンなし
10	GND



ピン番号	定義
1	電源
2	電源
3	TPA0+
4	TPA0-
5	GND
6	GND
7	TPB0+
8	TPB0-
9	電源
10	電源
11	TPA1+
12	TPA1-
13	GND
14	ピンなし
15	TPB1+
16	TPB1-

21) IR

IRデバイスのピン1がコネクタのピン1と並んでいることを確認してください。ボードのIR機能を有効にするには、オプションのIRモジュールを購入する必要があります。IR/CIRまたはIRコネクタの極性にご注意ください。IRケーブルを接続している間ピン割り当てを慎重にチェックしてください。ケーブルとコネクタの接続を間違えると、デバイスが作動しなかったり、場合によっては破損することもあります。オプションのIRケーブルについては、お近くの販売店にお問い合わせください。

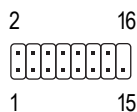
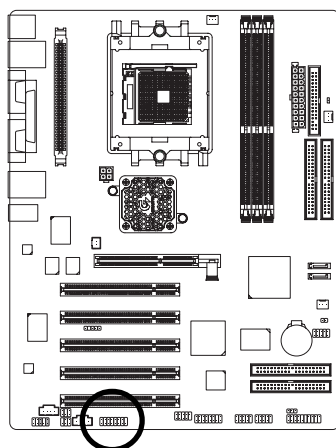


1

ピン番号	定義
1	VCC(+5V)
2	ピンなし
3	IRデータ入力
4	GND
5	IRデータ出力

22) GAME (ゲームコネクタ)

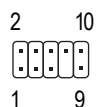
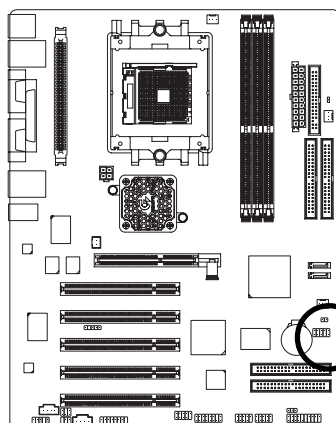
このコネクタはジョイスティック、MIDIキーボード、その他の関連オーディオデバイスをサポートしています。ゲームケーブルを接続している間、ピン割り当てをチェックしてください。オプションのゲームケーブルについては、最寄りの販売店にお問い合わせください。



ピン番号	定義
1	VCC
2	GRX1_R
3	GND
4	GPSA2
5	VCC
6	GPX2_R
7	GPY2_R
8	MSL_R
9	GPSA1
10	GND
11	GPY1_R
12	VCC
13	GPSB1
14	MSO_R
15	GPSB2
16	ピンなし

23) INFO_LINK

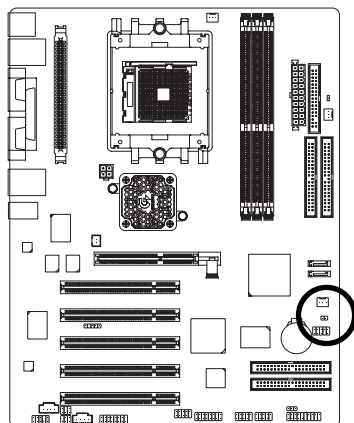
このコネクタは、いくつかの外部デバイスを接続して特別な機能を提供することができます。外部デバイスケーブルを接続している間、ピン割り当てをチェックしてください。オプションの外部デバイスケーブルについては、最寄りの販売店にお問い合わせください。



ピン番号	定義
1	SMBCLK
2	VCC
3	SMBDATA
4	GPIO
5	GND
6	GND
7	ピンなし
8	NC
9	+12V
10	+12V

24) CLR_PWD

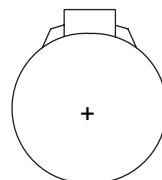
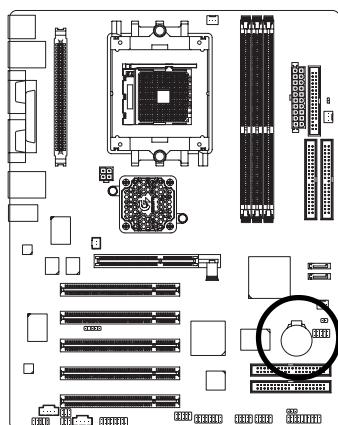
ジャンパが"開く"に設定されているときにシステムを再起動すると、設定されているパスワードが消去されます。これに反して、ジャンパを"閉じる"に設定すると、現在のステータスが保存されます。



1  開く: パスワードの消去

1  閉じる: 通常

25) BATTERY (バッテリー)



注意

- ❖ バッテリーを正しく入れないと爆発する危険があります。
- ❖ メーカー保証の同じ型、もしくは同等の型のみと交換することができます。
- ❖ 使用済みバッテリーを処分するときにはメーカーの指示に従ってください。

CMOSを消去したい場合...

1. コンピュータの電源を切り、電源コードを外してください。
2. バッテリーを取り外し、30秒間お待ちください。
3. バッテリーを再び取り付けます。
4. 電源コードを接続し、コンピュータの電源を入れます。

日本語

This image shows a full page of white paper with horizontal grey ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page, providing a template for handwriting practice or general writing. There are no margins, text, or other markings present.

第3章 BIOSのセットアップ

本章ではBIOSのセットアッププログラムについて解説します。このプログラムでは、基本的なシステム構成を修正することができます。このタイプの情報はバッテリーでバックアップされたCMOS RAMに保存されているため、電源がオフになってもセットアップ情報が消えることはありません。

セットアップの起動

コンピュータの電源をオンにしてすぐキーを押せば、セットアップが起動します。より詳細なBIOS設定を行う場合は、「アドバンスBIOS」設定メニューをご利用ください。アドバンスBIOS設定メニューに入るには、BIOS画面で"Ctrl+F1"キーを押します。

操作キー

<↑>	前のアイテムに移動
<↓>	次のアイテムに移動
<←>	左のアイテムに移動
<→>	右のアイテムに移動
<Enter>	アイテムの選択
<Esc>	メインメニューでは、変更を保存せずに終了してCMOSステータスページセットアップメニューに入り、オプションページセットアップメニューでは、現在のページを終了し、メインメニューに戻ります。
<+/PgUp>	数値を多くするか、変更します。
<-/PgDn>	数値を少なくするか、変更します。
<F1>	ステータスページセットアップメニューまたはオプションページセットアップメニューでのみ、全般ヘルプを表示します。
<F2>	アイテムのヘルプ
<F3>	未使用
<F4>	未使用
<F5>	オプションページセットアップメニューでのみ、CMOSから前のCMOS値の回復
<F6>	BIOS初期設定表から、フェールセーフ初期CMOS値を読み込み
<F7>	最適化された初期設定の読み込み
<F8>	デュアルBIOS/Q-Flash機能
<F9>	システム情報
<F10>	メインメニューでのみ、全てのCMOS変更を保存

全 般 ヘルプ

メインメニュー

画面の下部に、反転表示したセットアップ機能のオンライン説明が表示されます。

ステータスページセットアップメニュー/ オプションページセットアップメニュー

F1を押すと小さなヘルプウィンドウが表示され、反転表示したアイテムを使用し選択するための正しいキーを説明し、<Esc>で終了します。

メインメニュー(例: BIOS Ver. : F1a)

Award BIOS CMOSセットアップユーティリティを起動すると、メインメニュー（図1）が画面に表示されます。8つのセットアップ機能と2つの終了選択肢から選択することができます。矢印キーでアイテムを選択し、<Enter>を押すとアイテムを受け入れるかサブメニューが表示されます。

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2003 Award Software	
▶ Standard CMOS Features ▶ Advanced BIOS Features ▶ Integrated Peripherals ▶ Power Management Setup ▶ PnP/PCI Configurations ▶ PC Health Status ▶ Frequency/Voltage Control	- Load Fail-Safe Defaults - Load Optimized Defaults - Set Supervisor Password - Set User Password - Save & Exit Setup - Exit Without Saving
ESC: Quit	↑↓→←: Select Item
F8: Dual BIOS/Q-Flash	F10: Save & Exit Setup
Time, Date, Hard Disk Type...	

Figure 1: Main Menu



希望する設定が見つからない場合は、"Ctrl+F1"を押して詳細設定オプションウィンドウを検索してください。

- **Standard CMOS Features (標準 CMOS 機能)**
標準互換BIOSの全てのアイテムが含まれます。
- **Advanced BIOS Features (拡張 BIOS 機能)**
Awardの特別拡張機能の全てのアイテムが含まれます。

- **Integrated Peripherals (統合周辺装置)**
オンボード周辺装置の全てのアイテムが含まれます。
- **Power Management Setup (電源管理のセットアップ)**
グリーン機能の全てのアイテムが含まれます。
- **PnP/PCI Configuration (PnP/PCI 設定)**
PCI & PnP ISAリソースの全ての設定が含まれます。
- **PC Health Status (PCヘルスステータス)**
温度、電圧、ファンや速度などを自動検出します。
- **Frequency/Voltage Control (周波数/電圧コントロール)**
CPUのクロックや周波数倍率をコントロールします。
- **Load Fail-Safe Defaults (ロードフェイルセーフデフォルト)**
システムを安全に設定するシステムパラメータの値を示します。
- **Load Optimized Defaults (ロード最適化デフォルト)**
システムが最高性能で動作すると思われるシステムパラメータの値を示します。
- **Set Supervisor password (管理者パスワードの設定)**
パスワードの変更、設定、無効の設定ができます。システムセットアップ、またはセットアップの際のアクセスを制限できます。
- **Set User password (ユーザーパスワードの設定)**
パスワードの変更、設定、無効の設定ができます。システムへのアクセスを制限できます。
- **Save & Exit Setup (セットアップを保存して終了)**
CMOS値をCMOSに保存し、セットアップを終了します。
- **Exit Without Saving (保存しないで終了)**
全てのCMOS値を破棄し、セットアップを終了します。

Standard CMOS Features (標準CMOS機能)

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2003 Award Software

Standard CMOS Features

Date (mm:dd:yy)	Wed, Aug 08 2003	Item Help
Time (hh:mm:ss)	22:31:24	Menu Level ► Change the day, month, year
►IDE Primary Master	[None]	<Week> Sun. to Sat.
►IDE Primary Slave	[None]	
►IDE Secondary Master	[None]	
►IDE Secondary Slave	[None]	
Drive A	[1.44M, 3.5"]	<Month> Jan. to Dec.
Drive B	[None]	
Floppy 3 Mode Support	[Disabled]	<Day> 1 to 31 (or maximum allowed in the month)
Halt On	[All, But Keyboard]	<Year> 1999 to 2098
Base Memory	640K	
Extended Memory	130048K	
Total Memory	131072K	
↑↓→←: Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5:Previous Values F6:Fail-Safe Defaults F7:Optimized Defaults		

図2: 標準CMOS機能

☞ Date日付

日付形式は<週>、<月>、<日>、<年>です。

- ▶▶ 週 BIOSで決定される日から土まで。表示のみです。
- ▶▶ 月 1月から12月まで。
- ▶▶ 日 1から28、29、30、31まで。
- ▶▶ 年 1999から2098まで。

☞ Time 時間

形式は<時間>、<分>、<秒>で、軍時計での24時間表示です。例:1 p.m.は13:00:00。

☞ IDE Primary Master,Slave / IDE Secondary Master,Slave (IDEプライマリマスタ、スレーブ / セカンダリマスタ、スレーブ)

システムに取り付けられたハードディスクドライブCからFのタイプを識別します。オートとマニュアルの2つのタイプがあります。マニュアルはユーザーが定義し、オートタイプはHDDのタイプを自動的に検出します。

ドライブの様子はドライブ表とマッチしなければなりません。ここに間違った情報を入力すると、ハードディスクは正しく機能しません。

ユーザータイプを選んだ場合、下記の項目に関連情報を入力する必要があります。キーボードから直接入力し、<Enter>を押してください。これらの情報は、ハードディスクの付属文書などから入手できます。

- ▶▶ CYLS. ハードディスクのシリンダ番号
- ▶▶ HEADS ハードディスクヘッド番号
- ▶▶ PRECOMP ディスクドライブが現在の書き込みを変更するシリンダ番号
- ▶▶ LANDZONE ディスクドライブヘッドを置くシリンダの番号
- ▶▶ SECTORS トラックのセクタ番号

ハードディスクが接続されていない時は、NONEを選択し<Enter>を押してください。

☞ Drive A / Drive B (ドライブA / ドライブB)

システムに取り付けられたフロッピーディスクドライブAとBのタイプを識別します。

- ▶▶ None フロッピードライブなし
- ▶▶ 360K, 5.25 in. 5.25インチPCタイプ標準ドライブ; 360Kバイト容量
- ▶▶ 1.2M, 5.25 in. 5.25インチATタイプ高密度ドライブ; 1.2Mバイト容量
(3モードがEnabledの時は3.5インチ)。
- ▶▶ 720K, 3.5 in. 3.5インチダブルサイドドライブ; 720Kバイト容量
- ▶▶ 1.44M, 3.5 in. 3.5インチダブルサイドドライブ; 1.44Mバイト容量
- ▶▶ 2.88M, 3.5 in. 3.5インチダブルサイドドライブ; 2.88Mバイト容量

☞ Floppy 3 Mode Support (for Japan Area) (3 モードフロッピー 対応 (日本地域))

- ▶▶ Disabled 通 常 フロッピー ドライブ (初期設定)
- ▶▶ Drive A ドライブ A の 3 モード フロッピー ドライブ
- ▶▶ Drive B ドライブ B の 3 モード フロッピー ドライブ
- ▶▶ Both ドライブ A と B は 3 モード フロッピー ドライブ

☞ Halton (中断)

電源 オン 時にエラーが検出された場合、システムを停止させるかどうかを決定します。

- ▶▶ NO Errors エラーが検出された場合でもシステムは起動を停止しません。
- ▶▶ All Errors BIOS が致命的でないエラーを検出した場合、システムは停止します。
- ▶▶ All, But Keyboard キーボードエラー以外のエラーでシステムは停止します (初期設定)。
- ▶▶ All, But Diskette ディスクエラー以外のエラーでシステムは停止します。
- ▶▶ All, But Disk/Key ディスクエラー、キーボードエラー以外のエラーでシステムは停止します。

☞ Memory (メモリ)

BIOS の POST (Power On Self Test: パワーオンセルフテスト) 時に検出されたメモリを表示します (表示専用)。

Base Memory (基本メモリ)

BIOS の POST が、システムに搭載されている基本 (またはコンベンショナル) メモリの容量を検出します。

値は一般的にマザーボードに搭載されているメモリが 512 K の場合は 512 K、640 K またはそれ以上の場合は 640 K と表示します。

Extended Memory (拡張メモリ)

BIOS が POST 中に検出された拡張メモリの容量を割り出します。

これは、CPU のメモリアドレスマップで 1MB 以上に位置するメモリの容量です。

Advanced BIOS Features (拡張BIOS機能)

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2003 Award Software

Advanced BIOS Features

►SCSI/RAID Cntlr Boot Order	[Press Enter]	Item Help
First Boot Device	[Floppy]	Menu Level ►
Second Boot Device	[HDD-0]	Select boot sequence
Third Boot Device	[CDROM]	for onboard (or add-on
Password Check	[Setup]	cards) SCSI, RAID, etc
↑↓→←: Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5:Previous Values F6:Fail-Safe Defaults F7:Optimized Defaults		

図3: 拡張BIOS機能

☞ SCSI / RAID Control Boot Order (SCSI/RAIDコントロールブートオーダー)

オンボード(またはアドオンカード)SCSI、RAIDなどの起動シーケンスを選択してください。

<↑>または<↓>を使用してデバイスを選択し、<+>を押すとリストを上に移動し、<->を押すと下に移動します。

<ESC>を押すとこのメニューが終了します。

1. ITE RAIDコントローラ ITE RAIDによるブートデバイスの優先順位を選択します。
2. RAIDコントローラ RAIDによるブートデバイスの優先順位を選択します。

🔗 First / Second / Third Boot Device (第一 / 第二 / 第三起動デバイス)

- ▶▶ Floppy フロッピーによる起動デバイス優先順位を選択します。
- ▶▶ LS120 LS120による起動デバイス優先順位を選択します。
- ▶▶ HDD-0~3 HDD 0~3による起動デバイス優先順位を選択します。
- ▶▶ SCSI SCSIによる起動デバイス優先順位を選択します。
- ▶▶ CDROM CDROMによる起動デバイス優先順位を選択します。
- ▶▶ ZIP ZIPによる起動デバイス優先順位を選択します。
- ▶▶ USB-FDD USB-FDDによる起動デバイス優先順位を選択します。
- ▶▶ USB-ZIP USB-ZIPによる起動デバイス優先順位を選択します。
- ▶▶ USB-CDROM USB-CDROMによる起動デバイス優先順位を選択します。
- ▶▶ USB-HDD USB-HDDによる起動デバイス優先順位を選択します。
- ▶▶ LAN LANによる起動デバイス優先順位を選択します。
- ▶▶ Disabled Disabledによる起動デバイス優先順位を選択します。

🔗 Password Check (パスワードのチェック)

- ▶▶ System 正しいパスワードを入力しないと、システムも起動せずセットアップページにもアクセスできません。
- ▶▶ Setup 正しいパスワードを入力しないと、システムは起動しますがセットアップページにアクセスできません(初期設定)。

Integrated Peripherals (統合周辺装置)

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2003 Award Software

Integrated Peripherals			
IDE DMA transfer access	[Enabled]	Item Help	
On-Chip IDE Channel 0	[Enabled]	Menu Level ►	
On-Chip IDE Channel 1	[Enabled]		
Onchip Serial ATA	[Enabled]		
AC97 Audio	[Auto]		
VIA Onboard LAN	[Enabled]		
USB 1.1 Controller	[Enabled]		
USB 2.0 Controller	[Enabled]		
USB Device Function	[Disabled]		
USB Keyboard Support	[Disabled]		
USB Mouse Support	[Disabled]		
Onboard H/W LAN	[Enabled]		
Onboard H/W 1394	[Enabled]		
Onboard H/W ATA / RAID	[Enabled]		
GigaRAID Function	[RAID]		
Onboard FDC Controller	[Enabled]		
Onboard Serial Port 1	[3F8/IRQ4]		
Onboard Serial Port 2	[2F8/IRQ3]		
UART Mode Select	[Normal]		
x UR2 Duplex Mode	Half		
Onboard Parallel Port	[378/IRQ7]		
Parallel Port Mode	[SPP]		
Game Port Address	[201]		
Midi Port Address	[330]		
Midi Port IRQ	[10]		
↑↓→←: Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help			
F5:Previous Values F6:Fail-Safe Defaults F7:Optimized Defaults			

図4: 統合周辺装置

☞ IDE DMA transfter access (IDE DMA 転送アクセス)

- ▶▶ Enabled IDE DMA転送アクセスを有効にします(初期設定)。
- ▶▶ Disabled IDE DMA転送アクセスを無効にします。

☞ On-Chip IDE Channel 0 (オンチップIDE チャンネル0)

- ▶▶ Enabled 搭載されている最初のチャンネルIDE ポートを有効にします(初期設定)。
- ▶▶ Disabled 搭載されている最初のチャンネルIDE ポートを無効にします。

☞ On-Chip IDE Channel 1 (オンチップIDE チャンネル1)

- ▶▶ Enabled 搭載されている 2 番目のチャンネル IDE ポートを有効にします(初期設定)。
- ▶▶ Disabled 搭載されている 2 番目のチャンネルIDEポートを無効にします。

☞ On-chip SATA

- ▶▶ Disabled SATAコントローラを無効にする。
- ▶▶ Auto デバイスがIDE1または IDE2に挿入されている場合、SATA コントローラはIDEコントローラに再度マップされます。
- ▶▶ Enabled SATAモードをマニュアルで設定する(初期設定)。

☞ AC97 Audio

- ▶▶ Auto AC'97オーディオ機能を有効にします(初期設定)。
- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。

☞ VIA OnboardLAN (VIA オンボードLAN)

- ▶▶ Enabled オンボードLAN機能を有効にします(初期設定)。
- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。

☞ USB 1.1 Controller (USB 1.1コントローラ)

オンボードUSB機能を使用していない場合、Disabledに設定してください。

- ▶▶ Enabled USB 1.1コントローラを有効にします(初期設定)。
- ▶▶ Disabled USB 1.1コントローラを無効にします。

☞ USB 2.0 Controller (USB 2.0コントローラ)

オンボードUSB機能を使用していない場合、Disabledに設定してください。

- ▶▶ Enabled USB 2.0コントローラを有効にします(初期設定)。
- ▶▶ Disabled USB 2.0コントローラを無効にします。

☞ USB Device Function (USB デバイス機能)

オンボードUSB機能を使用していない場合、Disabledに設定してください。

- ▶▶ Enabled USBデバイス機能を有効にします(初期設定)。
- ▶▶ Disabled USBデバイス機能を無効にします。

☞ USB Keyyoard Support (USBキーボードのサポート)

USBキーボードを取り付けているとき、有効に設定してください。

- ▶▶ Enabled USBキーボードのサポートを有効にします。
- ▶▶ Disabled USBキーボードのサポートを無効にします(初期設定)。

☞ USB Mouse Support (USBマウスのサポート)

USBマウスを取り付けているとき、有効に設定してください。

- ▶▶ Enabled USBマウスのサポートを有効にします。
- ▶▶ Disabled USBマウスのサポートを無効にします(初期設定)。

☞ Onboard H / WLAN (オンボードH/WLAN)

- ▶▶ Enabled オンボードH/WLAN機能を有効にします(初期設定)。
- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。

☞ Onboard H/W 1394

- ▶▶ Enabled オンボードIEEE1394機能を有効にします(初期設定)。
- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。

☞ Onboard H/W ATA / RAID

- ▶▶ Enabled オンボードH/WATA/RAID機能を有効にします(初期設定)。
- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。

☞ Giga-RAID Function (Giga-RAID機能)

- ▶▶ RAID オンボードGiga-RAIDチップ機能をRAIDとして選択します(初期設定)。
- ▶▶ ATA オンボードGiga-RAIDチップ機能をATAとして選択します。

☞ Onboard FDC Controller (オンボードFDCコントローラ)

- ▶▶ Enabled オンボードFDCコントローラを有効にします(初期設定)。
- ▶▶ Disabled オンボードFDCコントローラを無効にします。

☞ Onboard Serial Port 1 (オンボードシリアルポート1)

- ▶▶ Auto BIOSがポート1のアドレスを自動的にセットアップします。
- ▶▶ 3F8/IRQ4 オンボードシリアルポート1を有効、IRQ4を使用して、アドレスを3F8に設定します(初期設定)。
- ▶▶ 2F8/IRQ3 オンボードシリアルポート1を有効、IRQ3を使用して、アドレスを2F8に設定します。
- ▶▶ 3E8/IRQ4 オンボードシリアルポート1を有効、IRQ4を使用して、アドレスを3E8に設定します。
- ▶▶ 2E8/IRQ3 オンボードシリアルポート1を有効、IRQ3を使用して、アドレスを2E8に設定します。
- ▶▶ Disabled オンボードシリアルポート1を無効にします。

☞ Onboard Serial Port 2 (オンボードシリアルポート2)

- ▶▶ Auto BIOSがポート2アドレスを自動的にセットアップします。
- ▶▶ 3F8/IRQ4 オンボードシリアルポート2を有効、IRQ4を使用して、アドレスを3F8に設定します。
- ▶▶ 2F8/IRQ3 オンボードシリアルポート2を有効、IRQ3を使用して、アドレスを2F8に設定します(初期設定)。
- ▶▶ 3E8/IRQ4 オンボードシリアルポート2を有効、IRQ4を使用して、アドレスを3E8に設定します。
- ▶▶ 2E8/IRQ3 オンボードシリアルポート2を有効、IRQ3を使用して、アドレスを2E8に設定します。
- ▶▶ Disabled オンボードシリアルポート2を無効にします。

☞ UART Mode Select (UARTモード選択)

このアイテムでは、オンボードI/Oチップの赤外線(IR)機能を決定します。

- ▶▶ Normal オンボードI/OチップUARTを標準モードに設定します(初期設定)。
- ▶▶ IrDA オンボードI/OチップUARTをIrDAモードに設定します
- ▶▶ ASKIR オンボードI/OチップUARTをASKIRモードに設定します

☞ UR2Duplex Mode (UR2 デュプレックスモード)

- ▶▶ Full IR機能デュプレックスはフルです。
- ▶▶ Half IR機能デュプレックスはハーフです(初期設定)。

☞ Onboard Parallel Port (オンボードパラレルポート)

- ▶▶ 378/IRQ7 オンボードLPTポートを有効、IRQ7を使用して、アドレスを378に設定します(初期設定)。
- ▶▶ 278/IRQ5 オンボードLPTポートを有効、IRQ5を使用して、アドレスを278に設定します。
- ▶▶ Disabled オンボードLPTポートを無効にします。
- ▶▶ 3BC/IRQ7 オンボードLPTポートを有効、IRQ7を使用して、アドレスを3BCに設定します。

☞ Parallel Port Mode (パラレルポートモード)

- ▶▶ SPP パラレルポートを標準パラレルポートとして使用します(初期設定)。
- ▶▶ EPP パラレルポートを拡張パラレルポートとして使用します。
- ▶▶ ECP パラレルポートを拡張機能ポートとして使用します。
- ▶▶ ECP+EPP パラレルポートをECP&EPPモードとして使用します。

☞ Game Port Address (ゲームポートアドレス)

- ▶▶ 201 ゲームポートアドレスを201に設定します(初期設定)。
- ▶▶ 209 ゲームポートアドレスを209に設定します。
- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。

☞ Midi Port Address (Midiポートアドレス)

- ▶▶ 290 Midiポートアドレスを290に設定します。
- ▶▶ 300 Midiポートアドレスを300に設定します。
- ▶▶ 330 Midiポートアドレスを330に設定します(初期設定)。
- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。

☞ Midi Port IRQ (MidiポートIRQ)

- ▶▶ 5 MidiポートIRQを5に設定します。
- ▶▶ 10 MidiポートIRQを10に設定します(初期設定)。

Power Management Setup (電源管理のセットアップ)

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2003 Award Software

Power Management Setup

ACPI Suspend Type	[S1(POS)]	Item Help
x USB Device Wake-Up From S3	Disabled	Menu Level ►
Soft-Off by PWRBTTN	[Instant-Off]	[S1]
AC Back Function	[Soft-Off]	Set suspend type to
Keyboard Power On	[Disabled]	Power On Suspend under
Mouse Power On	[Disabled]	ACPI OS
PME Event Wake Up	[Enabled]	
ModemRing Resume	[Enabled]	[S3]
Resume by Alarm	[Disabled]	Set suspend type to
x Date (of Month) Alarm	Everyday	Suspend to RAM under
x Time (hh:mm:ss) Alarm	0 : 0 : 0	ACPI OS
↑↓→←: Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5:Previous Values F6:Fail-Safe Defaults F7:Optimized Defaults		

図5: 電源管理のセットアップ

☞ ACPI Suspend Type (ACPI サスペンドの種類)

- ▶▶ S1(POS) ACPIサスペンドの種類をS1に設定します(初期設定)。
- ▶▶ S3(STR) ACPIサスペンドの種類をS3に設定します。

☞ USB Device Wake-up From S3 (S3からUSBデバイスの呼び起こし)

- ▶▶ Disabled S3からUSBデバイスの呼び起こしを無効にします(初期設定)。
- ▶▶ Enabled S3からUSBデバイスの呼び起こしを有効にします。

☞ Soft-off by PWRBTTN (PWRBTTNによるソフトオフ)

- ▶▶ Instant-off 電源ボタンを押すと直ちに電源はオフになります(初期設定)。
- ▶▶ Delay 4 Sec. 電源ボタンを4秒間押すと電源はオフになります。それ以下の場合は、サスペンドモードになります。

☞ AC Back Function (AC復帰機能)

- ▶▶ Memory AC電源が回復すると、システムはAC電源がオフになる前の状態に戻ります。
- ▶▶ Soft-Off AC電源が回復すると、システムは常にOffの状態になります(初期設定)。
- ▶▶ Full-On AC電源が回復すると、システムは常にOnの状態になります。

☞ Keyboard Power On (キーボードで電源オン)

- ▶▶ Password キーボード電源オンパスワードを1-5文字で入力します。
- ▶▶ Disabled この機能を無効にします(初期設定)。
- ▶▶ Keyboard 98 お使いのキーボードが"POWER Key"ボタンを装備していれば、そのキーを押すことでシステムの電源をオンにできます。

☞ Mouse Power On (マウスで電源オン)

- ▶▶ Disabled この機能を無効にします(初期設定)。
- ▶▶ Double Click マウスボタンをダブルクリックすると、システムの電源がオンになります。

☞ PME Event Wake Up (PME Event呼び起こし)

- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。
- ▶▶ Enabled PMEイベントの呼び起こしを有効にします(初期設定)。

☞ ModemRingResume

- ▶▶ Disabled モデムのRing On / Wake On LAN機能を無効にします。
- ▶▶ Enabled このオプションが"Enabled"に設定されていれば、モデムのring / LAN呼び起こしはシステムをソフトオフまたはサスペンド状態から呼び起こします(初期設定)。

🔗 Resume by Alarm (アラームで回復)

"Resume by Alarm"アイテム有効にすると、日付や時間でシステムの電源をオンにすることができます。

- ▶▶ Disable この機能を無効にします(初期設定)。
- ▶▶ Enabled この機能を有効にしてシステムの電源をオンにします。

RTC Alarm Lead To Power Onが使用可能の時は以下のように設定します。

日付アラーム： 毎日、1-31

時間(hh: mm: ss)アラーム： (0~23) : (0~59) : (0~59)

PnP / /PCI Configurations (PnP/PCI設定)

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2003 Award Software

PnP / /PCI Configurations

PCI 1/5 IRQ Assignment	[Auto]	Item Help
PCI 2 IRQ Assignment	[Auto]	Menu Level ►
PCI 3 IRQ Assignment	[Auto]	
PCI 4 IRQ Assignment	[Auto]	Device(s) using this INT:
		Network Cntrlr -BUS 0 Dev 18 Func 0 Display Cntrlr
↑↓→←: Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5:Previous Values F6:Fail-Safe Defaults F7:Optimized Defaults		

図6: PnP/PCI設定

☞ PCI 1/5 IRQ Assignment (PCI 1/5 IRQアサイン)

- ▶▶ Auto IRQを PCI 1/5に自動的に割り当てます(初期設定)。
- ▶▶ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15 IRQ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15を PCI 1/5に設定します。

☞ PCI 2 IRQ Assignment (PCI 2 IRQアサイン)

- ▶▶ Auto IRQを PCI 2に自動的に割り当てます(初期設定)。
- ▶▶ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15 IRQ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15を PCI 2に設定します。

☞ PCI 3 IRQ Assignment (PCI 3 IRQアサイン)

- ▶▶ Auto IRQを PCI 3に自動的に割り当てます(初期設定)。
- ▶▶ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15 IRQ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15を PCI 3に設定します。

☞ PCI 4 IRQ Assignment (PCI 4 IRQアサイン)

- ▶▶ Auto IRQを PCI 4に自動的に割り当てます(初期設定)。
- ▶▶ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15 IRQ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15を PCI 4に設定します。

PC Health Status (PCヘルスステータス)

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2003 Award Software

PC Health Status		
Vcore	OK	Item Help
DDR25V	OK	Menu Level ►
+3.3V	OK	
+12V	OK	[Disabled]x
Current CPU Temperature	33°C	Don't monitor
Current CPU FAN Speed	4440 RPM	current fan speed
Current SYSTEM FAN Speed	0 RPM	
CPU FAN Fail Warning	[Disabled]	[Enabled]
SYSTEM FAN Fail Warning	[Disabled]	Alarm when FAN stops
↑↓→←: Move Enter:Select +/-PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5:Previous Values F6:Fail-Safe Defaults F7:Optimized Defaults		

図7: PCヘルスステータス

☞ Vcore / DDR25V / +3.3V / +12V

▶ システムの電圧ステータスを自動検出します。

☞ Current CPU Temperature (現在のCPU温度)

▶ CPU温度を自動的に検出します。

☞ Current CPU / SYSTEM FAN Speed (RPM) (現在のCPU/システムファン速度 (RPM))

▶ CPU/システムファン速度のステータスを自動的に検出します。

☞ CPU FAN Fail Warning (CPUファンフェール警告)

- ▶ Disabled ファン警告機能を無効にします(初期設定)。
- ▶ Enabled ファンが停止したとき、ファン警告機能を有効にします。

☞ SYSTEM FAN Fail Warning (システムファンフェール警告)

- ▶ Disabled ファン警告機能を無効にします(初期設定)。
- ▶ Enabled ファンが停止したとき、ファン警告機能を有効にします。

Frequency / Voltage (周波数/電 圧コントロール)

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2003 Award Software

Frequency / Voltage		
Auto Detect PCI/DIMM CLK	[Enabled]	Item Help
CPU Clock	[200MHz]	Menu Level ►
CPU Voltage Control	[Normal]	
Normal CPU Vcore	1.550V	
AGP OverVoltage Control	[Auto]	
DIMM OverVoltage Control	[Auto]	
↑↓→←: Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5:Previous Values F6:Fail-Safe Defaults F7:Optimized Defaults		

図8: 周波数/電 圧コントロール

☞ Auto Detect PCI / DIMM CLK (PCI/DIMM CLK自動検出)

- ▶▶ Enabled PCI/DIMMクロックの自動検出を有効にします(初期設定)。
- ▶▶ Disabled この機能を無効にします

☞ CPU Clock (CPU ク ロ ッ ク)

- ▶▶ 200MHz ~255MHz CPUホストクロックを200MHzから255MHzまで設定します。

☞ CPU Voltage Control (CPU 電 圧コントロール)

- ▶▶ 調整可能なCPU Vcoreを+5.0%から+10.0%までサポートします。
(初期設定: 標準)
- ※間違って使用すると、システムエラーの原因となります。パワーユーザーのみ使用してください!

☞ AGP Over Voltage Control (AGP過 電 圧コントロール)

- ▶▶ Normal AGP過電圧コントロールを標準に設定します(初期設定)。
- ▶▶ +0.1V AGP過電圧コントロールを+0.1Vに設定します。
- ▶▶ +0.2V AGP過電圧コントロールを+0.2Vに設定します。
- ▶▶ +0.3V AGP過電圧コントロールを+0.3Vに設定します。
- ※間違って使用すると、システムエラーの原因となります。パワーユーザーのみ使用してください!

 DIMM Over Voltage Control (DIMM過電圧コントロール)

- ▶▶ Normal DIMM過電圧コントロールを標準に設定します(初期設定)。
- ▶▶ +0.1V DIMM過電圧コントロールを+0.1Vに設定します。
- ▶▶ +0.2V DIMM過電圧コントロールを+0.2Vに設定します。
- ▶▶ +0.3V DIMM過電圧コントロールを+0.3Vに設定します。

●*間違えて使用すると、システムエラーの原因となります。パワーユーザーのみ
使用してください!

Load Fail-Safe Defaults (ロードフェールセーフデフォルト)

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2003 Award Software

▶ Standard CMOS Features ▶ Advanced BIOS Features ▶ Integrated Peripherals ▶ Power Management Setup ▶ PnP/PCI ▶ PC Health ▶ Frequency/Voltage Control	Load Fail-Safe Defaults Load Optimized Defaults Set Supervisor Password Set User Password Load Fail-Safe Defaults (Y/N) ? N
ESC: Quit	↑↓→←: Select Item
F8: Dual BIOS/Q-Flash	F10: Save & Exit Setup
Load Fail-State Defaults	

図9: ロードフェールセーフデフォルト

Load Fail-Safe Defaults (ロードフェールセーフデフォルト)

フェイルセーフデフォルトは、最低限のシステムパフォーマンスに最も適切なシステムパラメータ値を含んでいます。

Load Optimized Defaults(ロード最適化デフォルト)

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2003 Award Software

▶ Standard CMOS Features	Load Fail-Safe Defaults
▶ Advanced BIOS Features	Load Optimized Defaults
▶ Integrated Peripherals	Set Supervisor Password
▶ Power Management Setup	Set User Password
▶ PnP/PCI Configurations	Save & Exit Setup
▶ PC Health	
▶ Frequency/Voltage Control	

Load Optimized Defaults (Y/N) ? N

ESC: Quit	↑↓→←: Select Item
F8: Dual BIOS/Q-Flash	F10: Save & Exit Setup

Load Optimized Defaults

図10: ロード最適化デフォルト

Load Optimized Defaults (ロード最適化デフォルト)

このフィールドを選択すると、システムがBIOSとチップセット機能の初期設定を自動的に検出し、ロードします。

Set Supervisor / User Password (管理者/ユーザーパスワードの設定)

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2003 Award Software

▶ Standard CMOS Features	Load Fail-Safe Defaults
▶ Advanced BIOS Features	Load Optimized Defaults
▶ Integrated Peripherals	Set Supervisor Password
▶ Power Management Setup	Set User Password
▶ PnP/PCI Configuration	Save & Exit Setup
▶ PC Health Status	
▶ Frequency/Voltage Control	

Enter Password:

ESC: Quit	↑↓→←: Select Item
F8: Dual BIOS/Q-Flash	F10: Save & Exit Setup
Change/Set/Disable Password	

図11: パスワードの設定

本機能を選択すると、画面中央に次のメッセージが表示され、パスワードを設定することができます。

8文字以内でパスワードを入力し、<Enter>を押します。確認画面になるので、再度パスワードを入力し、<Enter>を押します。または、<Esc>を押して選択を破棄することもできます。

パスワードを利用しない場合には、パスワード入力画面で<Enter>を押します。"PASSWORD DISABLED (パスワード無効)"という確認画面が表示され、パスワードが無効になります。これで、システム起動も、セットアップに入ることも自由にできます。

BIOSセットアッププログラムでは、2種類のパスワード設定ができます。

管理者パスワード (SUPERVISOR PASSWORD) とユーザーパスワード (USER PASSWORD) です。無効の場合、誰でも全てのBIOSセットアッププログラム機能にアクセスできます。有効の場合、BIOSセットアッププログラムの全項目にアクセスするには管理者パスワードが必要になり、基本的な項目のみにアクセスするにはユーザーパスワードが必要になります。

拡張BIOS機能メニューの"パスワードチェック"で"システム"を選択すると、システムを起動し、セットアップメニューに入るたびにパスワードの入力が必要になります。

拡張BIOS機能メニューの"パスワードチェック"で"セットアップ"を選択すると、セットアップメニューに入る際のみパスワードの入力が必要になります。

Save&Exit Setup (セッティングを保存して終了)

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2003 Award Software

▶ Standard CMOS Features	Load Fail-Safe Defaults
▶ Advanced BIOS Features	Load Optimized Defaults
▶ Integrated Peripherals	Set Supervisor Password
▶ Power Management Setup	Set User Password
▶ PnP/PCI Configuration	Save & Exit Setup
▶ PC Health Status	
▶ Frequency/Voltage Control	
Save to CMOS and EXIT (Y/N) ? Y	
ESC: Quit	↑↓→←: Select Item
F8: Dual BIOS/Q-Flash	F10: Save & Exit Setup
Save & Exit Setup	

図12: セッティングを保存して終了

セッティングユーティリティを終了し、設定値をRTC CMOSに保存する場合は"Y"を入力します。

セッティングユーティリティに戻るには"N"を入力します。

Exit Without Saving (保存しないで終了)

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2003 Award Software

▶ Standard CMOS Features	Load Fail-Safe Defaults
▶ Advanced BIOS Features	Load Optimized Defaults
▶ Integrated Peripherals	Set Supervisor Password
▶ Power Management	
▶ PnP/PCI	
▶ PC Health Status	Exit Without Saving
▶ Frequency/Voltage Control	

Quit Without Saving (Y/N) ? N

ESC: Quit	↑↓→←: Select Item
F8: Dual BIOS/Q-Flash	F10: Save & Exit Setup
Abandon all Data	

図13: 保存しないで終了

設定値をRTC CMOSに保存せずにセットアップユーティリティを終了する場合は"Y"を入力します。

セットアップユーティリティに戻るには"N"を入力します。

日本語

[illegible]

第4章 テクニカルリファレンス

@BIOS™ の概要

Gigabyte announces @BIOS

Windows BIOS Liveアップデイトユーティリティ



BIOSアップデートをしたことがありますか。それとも、アップデートを必要でないとか、方法がわからないとか、危険だと思ってためらっていますか。

たてそうではないとしても、BIOSアップデートに多くの時間をかけていて、面倒な作業だと思いませんか。まず、いろんなBIOSファイルをWebからダウンロードして、DOSモードに変更する。次に、BIOSに合ったアップデートプログラムを使ってアップデートを実行する。この作業はおもしろくないですね。それに、もし間違ったBIOSファイルを使ってアップデートしたりすると、システムが動かなくなる。安心できず、常に注意を払わなくてはならない。悪夢です。

メーカーが何とかしてくれないだろうか、と思うのはあなただけではありません。そこでGIGABYTEはWINDOWで BIOSをアップデートできる@BIOSソフトウェアを開発しました。ワンクリックでBIOSをダウンロードし最新版にアップデートするWINDOWSユーティリティなのです。

@BIOSは、あなたの使っているGIGABYTEメインボードの種類を自動検出しBIOSファイルを最寄りのGIGABYTE FTPサイトからダウンロードし、アップデートします。もちろん、複数の選択肢から自由を選択して、直接アップデートすることもできますし、現在のBIOSファイルをバックアップすることも可能です。このように、@BIOSを利用することで、BIOSのアップデートや管理が本当に簡単になり、もう悩むことはありません。

このようなすばらしいソフトウェアがなんとGIGABYTEメインボードを購入すると無料で付属してくるのです。ただし、@BIOSを使うにはインターネットに接続できる環境でなくてはなりません。

EasyTune™ 4紹介

Gigabyte announces EasyTune™ 4

Windowsベースのオーバークロックユーティリティ



コンピュータユーザーなら知っているオーバークロックも実際に行っている人は多くありません。オーバークロックは難しく、ハードウェアの詳しい知識が必要である、と考えられているからでしょう。エキスパートユーザーは、オーバークロックを実現するために時間とお金を使って勉強しています。そして、様々なツールを使ってオーバークロック

を試みます。そして、そのように努力してオーバークロックに成功しても、そのシステムが安定して安全に動作するかどうかはわからないのです。しかし、今、その現状が変わりました。Windowsベースのオーバークロックユーティリティ、Gigabyte の「EasyTune 4」の登場が安全で安定して動作するオーバークロックをもたらしたのです。「Easy Mode」はパワーユーザーに対しても通常のユーザーに対してもWindows上で安全にオーバークロックできる最初のユーティリティです。「Easy Mode」または「Advanced Mode」を選択でき、「Easy Mode」では、「Auto Optimize」をクリックするだけで自動的に安全にオーバークロックできるようCPUクロックなどを設定し、オーバークロック状態を表示します。より高度にオーバークロックしたい場合には、「Advanced Mode」を選択し、「Sport Drive」オーバークロックインターフェースを利用してください。「Advanced Mode」では、システムバス/AGP/メモリ動作周波数を細かく指定することで最高のシステムパフォーマンスを実現できます。このユーティリティはGigabyte マザーボードで動作します。また、安全に安定してオーバークロックできるほかに、EasyTune 4にはもうひとつの特徴があります。EasyTune 4を利用する場合、BIOS設定やハードウェアのスイッチやジャンプを変更する必要がないのです。もし、EasyTune 4 をシステムの限界以上で設定した場合には、再起動して、再設定すればよいのです。設定は保存して、次回使用時に呼び出すことができます。この次世代を先取りしたすばらしいソフトウェアがGigabyte メインボードに無料で付属しています。「EasyTune 4」の驚くべき効果をあなたの目で確認してください。

**Gigabyte製品の中にはEasyTune 4に完全には対応していないものがあります。詳細は弊社Webサイトのサポートリストを参照してください。

K8DPS (デュアルパワーシステム)の概要



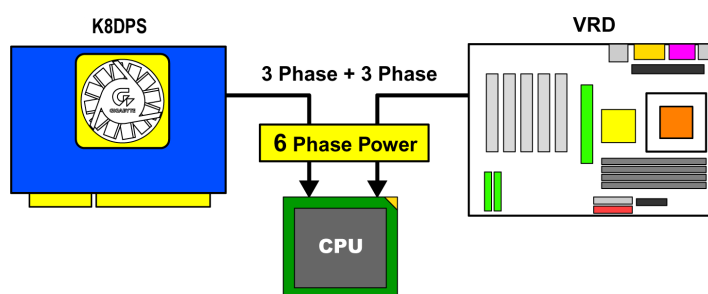
K8DPS - Gigabyte Technology社の新しい革新的技術で、合計6相の電源スイッチ設計を実現しています。これは、マザーボードの設計ガイドラインが推奨する特別な2相電源回路を提供します。K8DPS (デュアル

パワーシステム)設計のマザーボードでは、さらに3相電源回路K8DPSドーターカードがマザーボードに搭載されています。耐久性と安定性を増したことで、電源回路は最大150Aの大きな電流に耐えることができます。K8DPS (デュアルパワーシステム)は、さらに高い動作周波数および耐久性と安定性の電源回路を要求する、将来の次世代プロセッサ向けに特別に設計されたものです。

K8デュアルパワーシステムでの動作モード:

パラレルモード:

K8DPSとオンボードの電源回路が同時に動作することによって、合計6相の電源回路を提供しています。どれかの電源回路が故障した場合、残りの電源回路がメインの電源回路として動作します。



フラッシュBIOS方式の概要

方式1：デュアルBIOS / Q-Flash

A. デュアルBIOSテクノロジーとは？

DUAL BIOSでは、マザーボード上にメインBIOSとバックアップBIOSという2つのシステムBIOS(ROM)が搭載されています。通常は、メインBIOSを利用してシステムは動作します。もし、メインボードBIOSが破壊されたりして利用できないとき、システムの電源がオンになっている間に、バックアップBIOSを利用してシステムは動作します。これは、BIOSに何も起こらなかったかのように、PCが安定して動作できることを意味します。

B. デュアルBIOSと Q-FIRMWAREユーティリティの使い方？

- 1.) コンピュータの電源をオンにし、パワーオンセルフテスト(POST)が開始されたら直ちにキーを押し、Award BIOS CMOS SETUPを起動します。そして、<F8>を押してFlashユーティリティを起動します。

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2003 Award Software

▶ Standard CMOS Features	Load Fail-Safe Defaults
▶ Advanced BIOS Features	Load Optimized Defaults
▶ Integrated Peripherals	Set Supervisor Password
▶ Power M	Enter Dual BIOS / Q-Flash Utility (Y/N)? Y
▶ PnP/PCI Configurations	Save & Exit Setup
▶ PC Health Status	Exit Without Saving
▶ Frequency/Voltage Control	
ESC: Quit	↑↓→←: Select Item
F8: Dual BIOS / Q-Flash	F10: Save & Exit Setup

2.) AwardデュアルBIOS Flash ROMプログラミングユーティリティ

Dual BIOS Utility V1.30		
Boot From.....	Main Bios	
Main ROM Type/Size.....	SST 49LF003A	512K
Backup ROM Type/Size.....	SST 49LF003A	512K
Wide Range Protection	Disable	
Boot From	Main Bios	
Auto Recovery	Enable	
Halt On Error	Disable	
Keep DMI Data	Enable	
Copy Main ROM Data to Backup		
Load Default Settings		
Save Settings to CMOS		
Q-Flash Utility		
Update Main BIOS from Floppy		
Update Backup BIOS from Floppy		
Save Main BIOS to Floppy		
Save Backup BIOS to Floppy		
PgDn/PgUp: Modify	↑↓: Move	ESC: Reset F10: Power Off

3.) デュアルBIOSアイテム説明:

• ワイドレンジ保護: 使用不可(初期設定), 使用可能

スタートス1:

電源オンの後OS読み込み前に、メインBIOSに問題(例: UPDATE ESCDエラーやチェックサムエラー、リセットなど)が発生したとき、本アイテムが"ENABLE: 有効"に設定されている場合には自動的にバックアップBIOSから起動します。

スタートス2:

SCSIカードやLANカードなどの周辺装置カードのROM BIOSが、ユーザーの設定変更後システム再起動を要求する信号を出したとき、バックアップBIOSから起動しません。

• 起動元: メインBIOS(初期設定),バックアップBIOS

スタートス1:

起動するBIOSをメインBIOS/バックアップBIOSから選択できます。

スタートス2:

どちらかのBIOSが利用できないとき、本アイテムは淡色表示になり変更できません。

- **Auto Recovery(自動回復) : 使用可能(初期設定), 使用不可**
2つのBIOSのどちらかにチェックサムエラーが生じたとき、エラーのないBIOSが自動的にエラーの生じたBIOSを回復します。
(BIOS設定 : Power Management Setup(電源管理のセットアップ)でACPI Suspend Type(ACPIサスペンドの種類)がSuspend to RAM(サスペンドからRAM)のとき本項目は自動的にEnable:有効になります)。
(BIOS設定に入るには、起動時に"Del"キーを押します)。
- **Halt On Error(停止エラー) : 使用不可(初期設定), 使用可能**
BIOSにチェックサムエラーが生じたとき、またはメインBIOSにワイドレンジ保護エラーが生じたとき、停止エラーがEnable:使用可能に設定されている場合に、システム起動時にメッセージが表示され、ユーザーの指示を待つ状態で一時停止します。
自動回復がDisable:使用不可のとき<or the other key to continue: 他のキーを押すと続いて動作>と表示されます。
自動回復がEnable:使用可能のとき<or the other key to Auto Recover: 他のキーを押すと自動回復>と表示されます。
- **Keep DMI Data(DMIデータの維持) : 使用可能(初期設定), 使用不可**
使用可能: 新BIOS書き込みでDMIデータは置き換えられません(推奨)。
使用不可: DMIデータは新BIOS書き込みで置き換えられます。
- **Copy Main ROM Data to Backup(メインROMデータをバックアップにコピー)**
(バックアップROMから起動のとき、"バックアップROMデータからメインへのコピー"に変更されます)。
自動回復メッセージ:
BIOS Recovery(BIOS回復): Main to Backup(メインからバックアップへ)
メインBIOSは正常動作し、バックアップBIOSを自動回復できます。
BIOS Recovery(BIOS回復): Backup to Main(バックアップからメインへ)
バックアップBIOSは正常動作し、メインBIOSを自動修復できます。(この自動回復ユーティリティはシステムにより自動設定され、ユーザーにより変更することはできません)。
- **Load Default Settings(ロードデフォルト設定)**
デュアルBIOS 初期設定値を読み込みます。
- **Save Settings to CMOS(設定をCMOSに保存)**
修正した設定を保存します。

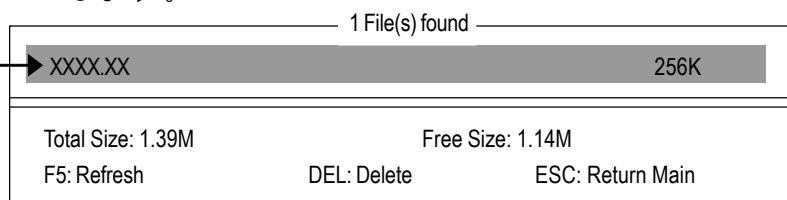
C. Q-Flashユーティリティとは？

Q-FlashユーティリティはO.S.と関係なく動作するBIOSフラッシュユーティリティで、BIOSモード内でそのBIOSをアップデートすることができます。OSをあれこれいじりまわす必要はありません。

D. Q-Flashの使い方？

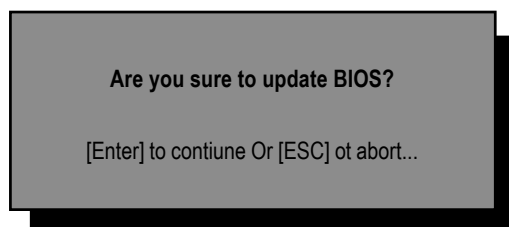
フロッピーからメインBIOSをアップデート/フロッピーからバックアップBIOSをアップデート

✎ A: ドライブで、"BIOS" ディスケットを挿入し、次にEnterを押して実行します。

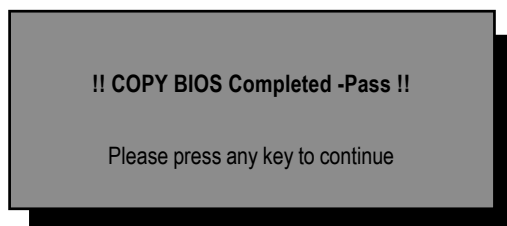


ここでXXXX.XXはBIOSファイルの名前です。

✎ Enterを押して実行します。



✎ Enterを押して実行します。



お疲れ様でした。BIOSフラッシュは完了です、再起動してください。

メインBIOSをフロッピーに保存 / バックアップBIOSをフロッピーに保存

✎ A:ドライブにディスクをセットしEnterを押して実行します。

TYPE FILE NAME

File name: XXXX.XX

Total Size: 1.39M Free Size: 1.39M
F5: Refresh DEL: Delete TAB: Switch

ファイル名を入力。

お疲れ様でした、これで保存は終了です。

コントロールキー

<PgDn/PgUp>	変更
<↑>	前のアイテムに移動
<↓>	次のアイテムに移動
<Enter>	実行
<Esc>	リセット
<F10>	電源オフ



DualBIOS™ 技術に関するFAQ

GIGABYTE Technologyは、システムBIOSを2つ搭載した画期的なデュアルBIOS技術を発売しました。この最新の“付加価値”機能により、GIGABYTEマザーボードの価値がより高くなります。今後のGIGABYTEマザーボードに搭載予定です。

DualBIOS™とは？

DUALBIOSを搭載したGIGABYTEマザーボードには、物理的に2つのBIOSチップが搭載されています。ひとつをメインBIOS、もうひとつをバックアップBIOS（ホットスペア）と呼ぶことにします。メインBIOSにエラーなど問題が生じたとき、自動的にバックアップBIOSを使ってシステムを起動することができます。ウイルスやBIOSアップデートの失敗などによりメインBIOSが使えなくなった場合も同様に、バックアップBIOSでシステムを自動的にかつほとんどダウンタイムなしに起動できます。

I. Q: DualBIOS™ 技術とは何ですか？

A:

DualBIOS 技術は、GIGA-BYTE TECHNOLOGYの特許技術です。システム復旧を簡単に短時間で実現します。DualBIOS™に対応したザーボードには、物理的にメインBIOSチップとバックアップBIOSチップの2つのBIOSチップが搭載されています。通常はメインBIOSでシステムは作動するのですが、メインBIOSに動作不能となるエラーが生じた際、自動的にバックアップBIOSでシステムが起動するようになります。ケースを開けてマザーボードを取り出し、修理に出す必要はないのです。

II. Q: DualBIOS™ 技術はなぜ全ユーザーに必要なのですか？**A:**

今日、BIOSは多くの脅威に直面しています。ウイルスの攻撃やBIOSアップデートの失敗、BIOSのROM自体に問題が生じることもあります。

1. 新型ウイルスには、BIOSプログラムを破壊し、システムを不安定にしたり、起動できなくしたりするものがあります。
2. BIOSデータは、電源遮断やサージ、システムのリセット、BIOSアップデート中に電源スイッチを押したような場合に破壊されます。
3. BIOSアップデート操作を間違ったり、間違ったBIOSファイルを使ってアップデートしたりするとシステムは起動しなくなります。これにより、システムは操作時または起動中にハングアップすることがあります。
4. フラッシュROMは電子パーツであり、寿命があります。特に、今日のブラグアンドプレイBIOSでは、BIOSへの書き込みも頻繁に発生するため、ROMチップの寿命も無視できません。

Giga-Byte Technologyの特許技術であるDualBIOS™技術を利用すると、BIOSデータに問題が生じて、修理に出す必要はありません。自動的にすぐ回復しシステムが起動します。

この新技術は、BIOSエラーによるシステムの貴重なダウンタイムや修理費を削減しています。

III. Q: DualBIOS™ 技術の動作について教えてください？**A:**

この新技術は、BIOSエラーによるシステムの貴重なダウンタイムや修理費を削減しています。

1. 技術は、システム起動中の幅広い保護を実現します。POST、ESCDアップデート、PNP検出割当などの作業時にBIOSを保護します。
2. DualBIOS™はBIOSの自動回復機能を提供します。起動中に最初のBIOSが完了できない場合、またはBIOSチェックサムエラーが発生した場合でも起動は可能です。DualBIOS™ユーティリティの“自動回復”オプションはメインBIOSかバックアップBIOSのどちらかが破損しても、DualBIOS™技術が正常なBIOSを使用して破損したBIOSを自動的に回復します。
3. DualBIOS™では、また手動回復機能も搭載しています。BIOSフラッシュ機能も搭載しているので、メインBIOS-バックアップBIOS間のコピーも可能です。OSに依存するフラッシュユーティリティプログラムは必要ありません。
4. DualBIOS™には、一方向フラッシュユーティリティも搭載し、修復中に破損したBIOSと正常なBIOSを取り換え、その結果正常なBIOSを間違えて書き換えるといった心配はありません。

IV. Q: DualBIOS™ 技術が必要なユーザーは？

A:

この新技術は、BIOSエラーによるシステムの貴重なダウンタイムや修理費を削減しています。

1. ますます増大するコンピュータウイルスにより、全てのユーザーにDualBIOS™ 技術が必要です。システムBIOSを破壊するBIOSタイプのウイルスが、毎日発見されていますが、現在販売されている製品のほとんどは、このタイプのウイルスの侵入を防ぐことができません。DualBIOS™ 技術はシステムを保護するための最先端のソリューションを提供いたします。

ケースI.) BIOSファイルを消してしまうようなウイルスに感染し、BIOSのROMがひとつしかない場合は、PCが機能しないため修理に出すしかありません。

ケースII.) DualBIOS™ ユーティリティの「自動修復機能」オプションが有効になっている場合には、ウイルスがシステムBIOSを破壊しても、バックアップBIOSがシステムを自動的に起動し、メインBIOSを回復します。

ケースIII.) ユーザーはメインシステムBIOSから起動するBIOSを上書きすることができます。DualBIOS™ ユーティリティを使えば、起動シーケンスを手動で変更しバックアップBIOSから起動することもできます。

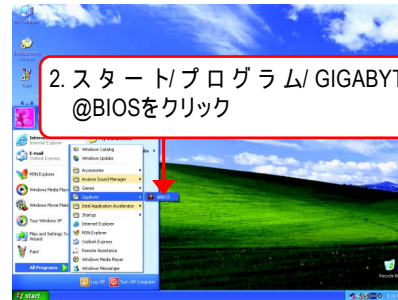
2. BIOSアップデート中または後に、DualBIOS™ がメインBIOSの問題を検出したら、バックアップBIOSを利用してシステムを自動的に起動します。さらに、起動時にメインBIOSとバックアップBIOSのチェックサムを照合する機能もあります。DualBIOS™ 技術ではシステムの電源オン時にメインBIOSとバックアップBIOSのチェックサムを検査し、BIOSの正常な動作を保証します。
3. パワーユーザーは、マザーボードに異なったバージョンのBIOSを格納して、どちらが最適か確認することができます。
4. ハイエンドデスクトップPCやワークステーション/サーバーに対しては柔軟性に富んだ対応が可能です。DualBIOS™ ユーティリティのオプションでは、“問題が発生したときに一時停止”を使用可能に設定すると、メインBIOSが破壊されているという警告メッセージを出してシステムを一時停することができます。ほとんどのワークステーション/サーバーは、サービスが中断しないように定期的な操作を要求します。この場合、標準起動中にシステムが一時停止しないように、“問題が発生したときに一時停止”メッセージを無効にすることができます。さらに、Giga-ByteのDualBIOS™ 技術では、将来、BIOSの容量を追加する必要が生じたとき、デュアル2MビットBIOSから4MビットタBIOSにアップグレードできます。

方式2 : @BIOS™ ユーティリティ

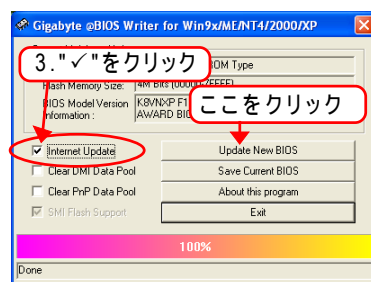
DOS起動ディスクがない場合には、Gigabyte @BIOS™プログラムを利用してフラッシュします。



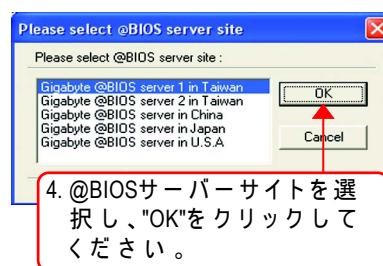
(1)



(2)



(3)



(4)

方式と手順:

- I. インターネットでのBIOSアップデート
 - a. "Internet Update"アイコンをクリックします。
 - b. "Update New BIOS"アイコンをクリックします。
 - c. @BIOS™サーバーを選択します。
 - d. 使用するマザーボードのモデル名を正確に選択します。
 - e. 自動的にBIOSがダウンロードされ、アップデートされます。

II. インターネットを使用せずにBIOSをアップデート:

- a. "Internet Update"アイコンをクリックしません。
- b. "Update New BIOS"アイコンをクリックします。
- c. 古いファイルを開いている間に、ダイアログボックスで"All Files: すべてのファイル"を選択します。
- d. BIOSファイル解凍をインターネットなどから探し、ダウンロードしてください。
(例: K8VNXF.F1a)。
- e. 下記の指示に従い、アップデートプロセスを完了します。

III. BIOSの保存

最初の方で、"Save Current BIOS"アイコンがダイアログボックスに表示されます。このアイコンで現在のBIOSを保存することができます。

IV. サポートするマザーボードとフラッシュROMのチェック:

最初の方で、"About this program"アイコンがダイアログボックスに表示されます。サポートするマザーボードとフラッシュROMのブランドについての情報を得ることができます。

注:

- a. 方式Iで、複製のマザーボード名が表示される場合は、マザーボードのモデル名を再度確認してください。間違っていると、システムが起動しません。
- b. 方式IIで、BIOS解凍ファイル内のマザーボードのモデル名がご使用のマザーボードのモデル名と合致しているかどうかを確認してください。合致していないと、システムが起動しません。
- c. 方式Iで、BIOSファイルが@BIOS™サーバー内に見つからないときは、GigabyteのWEBサイトからダウンロードし、方式IIIに従ってアップデートしてください。
- d. 作業を中断するとシステムが起動しなくなります。

2-/4-/6-チャンネルオーディオ機能の概要

windows 98SE/2K/ME/XPではとても簡単に、以下の手順で機能をインストールできます。

ステレオスピーカーの接続と設定:

ステレオ出力を適用する場合、アンプ付きスピーカーの使用を推奨します。

ステップ1:

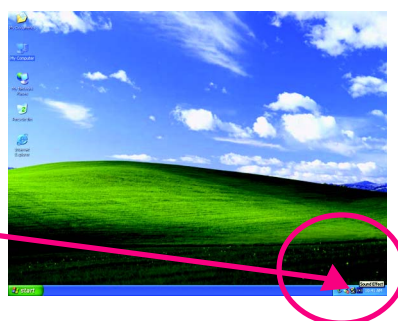
ステレオスピーカーかイヤフォンを「ライン出力」に接続します。



ライン出力

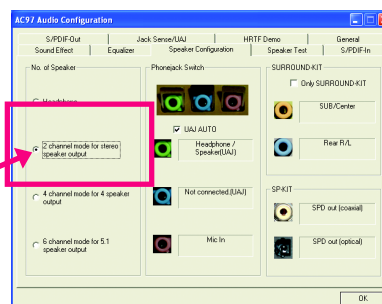
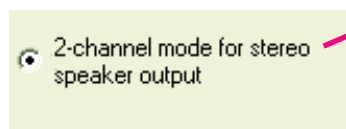
ステップ2:

オーディオドライバのインストール後、タスクバーのステータス領域に  アイコンが表示されます。画面下部のトレイからオーディオアイコン「Sound Effect」をクリックします。



ステップ3:

「Speaker Configuration」を選択し、「2 channel for stereo speaker output」を選択します。



4 チャンネルアナログオーディオ出力モード

ステップ1:

フロントチャンネルを「ライン出力」に、リアチャンネルを「ライン入力」に接続します。



ライン出力 ライン入力

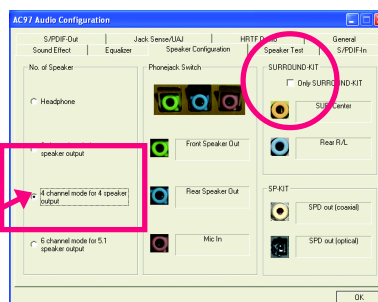
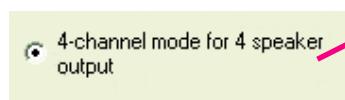
ステップ2:

オーディオドライバのインストール後、タスクバーのステータス領域に  アイコンが表示されます。画面下部のトレイからオーディオアイコン「Sound Effect」をクリックします。

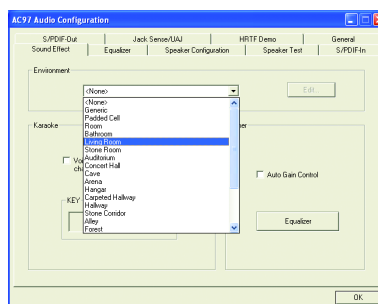


ステップ3:

「Speaker Configuration」を選択し、「4 channel for 4 speakers output」を選択します。「Only SURROUND-KIT」を無効にし、「OK」を押します。



「Environment settings」が「None」のとき、サウンドはステレオモード(2チャンネル出力)として再生されます。4チャンネル出力に対しては、他の設定を選択してください。



ベーシック6チャンネルアナログオーディオ出力モード

追加モジュールなしで、背面オーディオパネルをオーディオ出力に接続できます。

ステップ1:

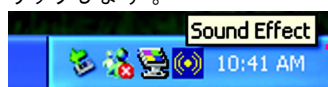
フロントチャンネルを「ライン出力」、リアチャンネルを「ライン入力」、中央/サブウーファチャンネルを「マイク入力」に接続します。



マイク入力 ライン出力

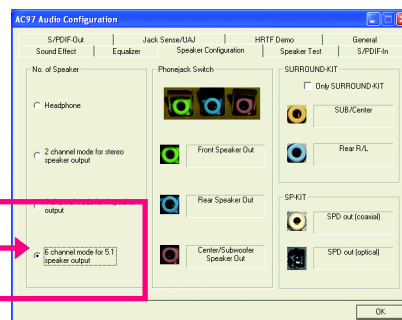
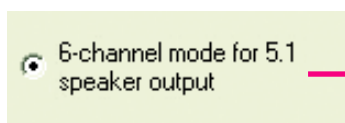
ステップ2:

オーディオドライバのインストール後、タスクバーのステータス領域に  アイコンが表示されます。画面の下部にあるトレイからオーディオアイコン「Sound Effect」をクリックします。



ステップ3:

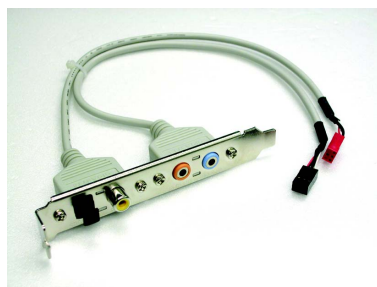
「Speaker Configuration」を選択し、「6 channel for 5.1 speaker output」を選びます。「Only SURROUND-KIT」を無効にし、「OK」を押します。



アドバンスド6チャンネルアナログオーディオ出力モード(オプションのAUDIO COMBO KIT使用):

(AUDIO COMBO KITは、SPDIF出力ポート、光学および同軸SURROUND-KIT : リアR/L & 中央/サブウーファを提供)

SURROUND-KITでアナログ出力と中央/サブウーファを利用できます。6チャンネル出力でライン入力やマイク入力も利用したい場合のベストソリューションです。「SURROUND-KIT」は図のように、GIGABYTEの「Audio Combo Kit」に含まれています。



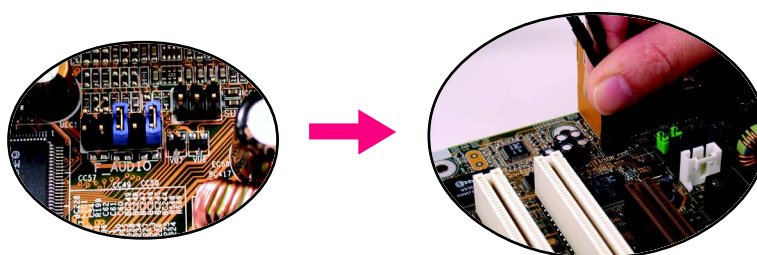
ステップ1:

「SURROUND-KIT」をケースの背面に差し込み、ネジで固定します。



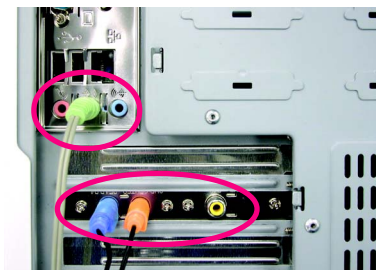
ステップ2:

「SURROUND-KIT」をマザーボードのSUR_CENに接続します。



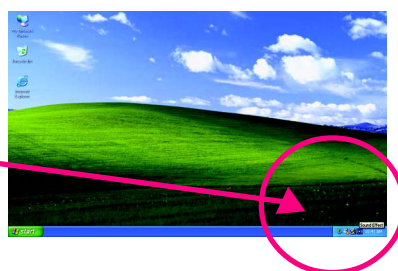
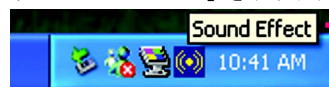
ステップ3 :

フロントチャンネルをバックオーディオパネルの"ライン出力"に、リアチャンネルをSURROUND-KITのリアR/Lに、中央/サブウーファチャンネルをSURROUND-KITのSUB CENTERに取り付けます。



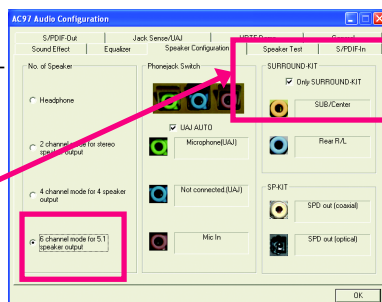
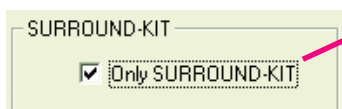
ステップ4 :

画面の下部にあるトレイからオーディオアイコン「Sound Effect」をクリックします。



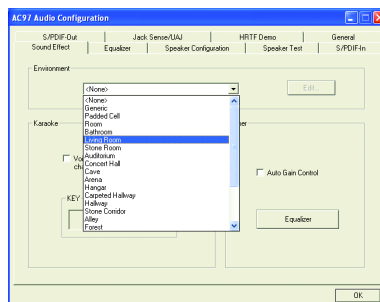
ステップ5 :

「Speaker Configuration」を選択し、「6 channels for 5.1 speakers output」を選びます。次に、「Only SURROUND-KIT」を使用可能に設定して「OK」を押します。



ベーシック&アドバンスド6チャンネルアナログオーディオ出力モードの注:

「Environment settings」が「None」のとき、サウンドはステレオモード(2チャンネル)として再生されます。6チャンネルで出力するには他の設定を選択してください。



SPDIF 出力デバイス(オプション)

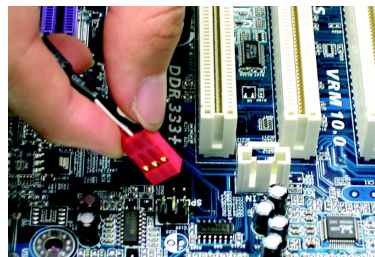
「SPDIF 出力」デバイスはマザーボードで利用できます。リアブラケットのあるケーブルは、「SPDIF 出力」コネクタにリンクできます(図参照)。デコーダとのリンクを付けるために、リアブラケットは同軸ケーブルとファイバ接続ポートを提供します。



1. SPDIF 出力デバイスをPCのリアブラケットに接続し、ネジで固定します。



2. SPDIFデバイスをマザーボードに接続します。



3. SPDIFを SPDIFデコーダに接続します。



Jack-Sensingのまとめ



Jack-Sensingはオーディオコネクタのエラー検出機能を提供します。

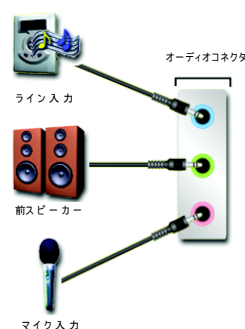


Windows 98/98SE/2000/MEでJack-Sensingのサポートを有効にする前に、Microsoft DirectX8.1をインストールしてください。

Jack-Sensingには、AUTOおよびMANUALの2つの部分が含まれます。次は2チャンネルの例です(Windows XP)。

オーディオコネクタの紹介

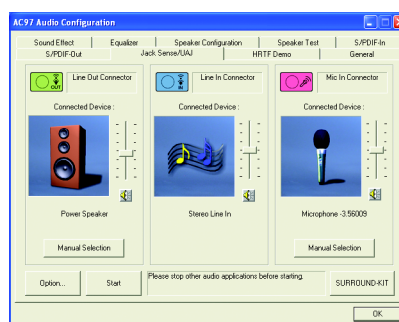
CDROM、ウォークマンなどのオーディオ入力デバイスをライン入力ジャックに、スピーカー、イヤホンなどの出力デバイスをライン出力ジャックに、マイクをマイク入力ジャックに接続できます。



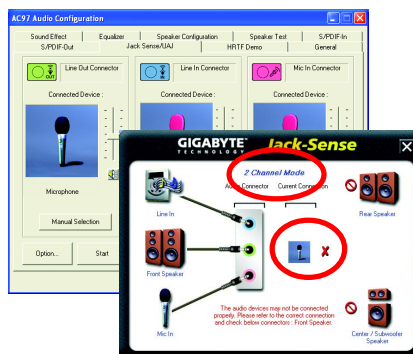
自動検出:

上のように、デバイスを右のジャックに接続してください。デバイスを正しくセットアップしていれば、ウィンドウが右図のように表示されます。

3Dオーディオ機能は、3Dオーディオ入力のあるときのみ表示されることにご注意ください。

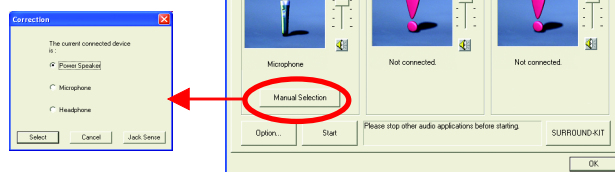


コネクタを間違えて設定すると、右図のように警告メッセージが表示されます。



手動設定:

デバイスの図が自分の設定と異なる場合、「Manual Selection」を押して設定してください。



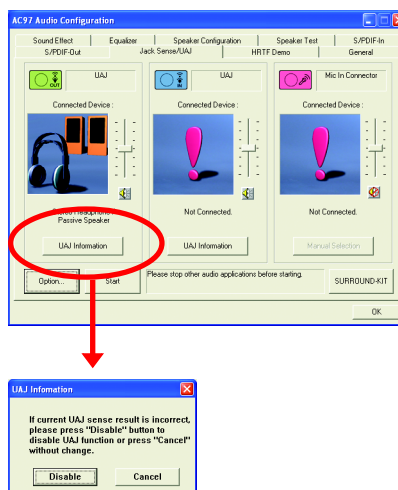
UAJのまとめ

UAJ (Universal Audio Jack: ユニバーサルオーディオジャック)は、きわめてスマートな機能を搭載しています。ユーザーが間違ったジャック(ライン出力/ライン入力)にオーディオデバイスを差し込むと、自動的に信号を切り替えます。ユーザーはオーディオデバイスをライン入力ジャックに差し込んだらいいのかライン出力ジャックに差し込んだらいいのか悩む必要はありません。UAJがアクティブになると、デバイスは正常に動作します。



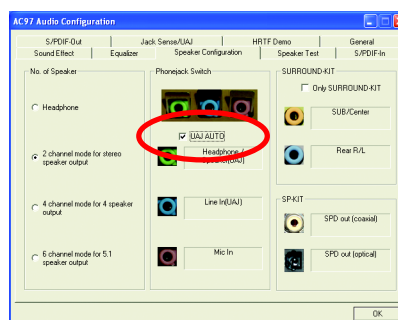
Windows 98/98SE/2000/MEでUAJサポートを有効にする前に、Microsoft DirectX8.1以降のバージョンをインストールしてください。

PS. UAJが予想通りに動作しない場合、「UAJ information」ボタンを押してこの機能を無効にしてください。オーディオデバイスが正しいジャック(ライン出力/ライン入力)に差し込まれると、Jack-Sense機能が起動して自動検出します。



UAJを回復する:

「UAJ AUTO」をクリックすると、UAJ機能が回復します。

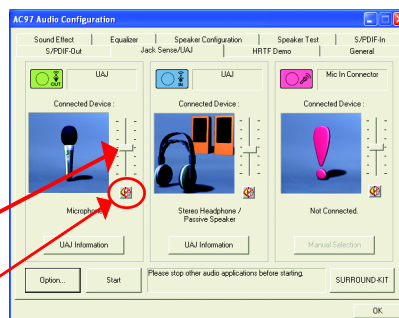


サウンドボリュームを調整する:

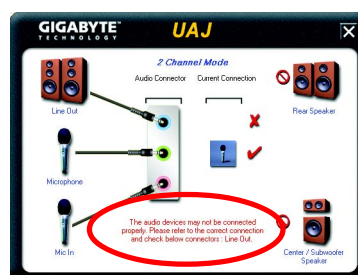
レバーを動かすことによって、サウンドボリュームを調整できます。
「ミュートボタン」を押してもサウンドを消すことができます。

ボリュームレバー

ミュートボタン



ライン入力デバイスが1つしかない、UAJは差し込むライン出力デバイスがありませんというメッセージを表示します。



注:

AUX入力機能を使用したい場合、AC97オーディオ設定メニューから、スピーカー設定アイテムからUAJ機能を無効にする必要があります。その後、「Volume Control」メニューのライン入力ボリュームレバーを使用して、ボリュームを調整する必要がありますが、それはAUX入力とライン入力機能が同じオーディオ信号によってコントロールされるからです。

Xpress Recoveryの概要

Xpress Recoveryとは何ですか?

Xpress Recoveryユーティリティは、OSパーティションのバックアップを取ったり回復するためのユーティリティです。ハードドライブが正常に動作しない場合、オリジナルの状態に回復できます。



1. FAT16, FAT32, NTFSフォーマットをサポートします。
2. IDE1 Masterに接続する必要があります。
3. OSは1つしかサポートできません。
4. HPAをサポートするIDEハードディスクと共に使用する必要があります。
5. 最初のパーティションは起動パーティションとして設定する必要があります。起動パーティションをバックアップするとき、そのサイズを変更しないでください。
6. ブートマネージャをNTFSフォーマットに戻すためにGhostを使用した場合、Xpress Recoveryの使用はお勧めしません。

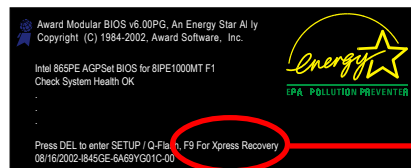


1. システムデータとハードディスクの読み込み/書き込み速度は、バックアップ速度に影響を与えます。
2. OS、ドライバ、アプリケーションをインストールしたら直ちにXpress Recoveryをインストールするようにお勧めします。

Xpress Recoveryの使用方法

ユーティリティを起動する方法は、2つあります(下をご覧ください)。

1. テキストモード: コンピュータの電源を入れている間にF9を押します。
コンピュータの電源を入れている間にF9を押します。



F9 Xpress Recovery用

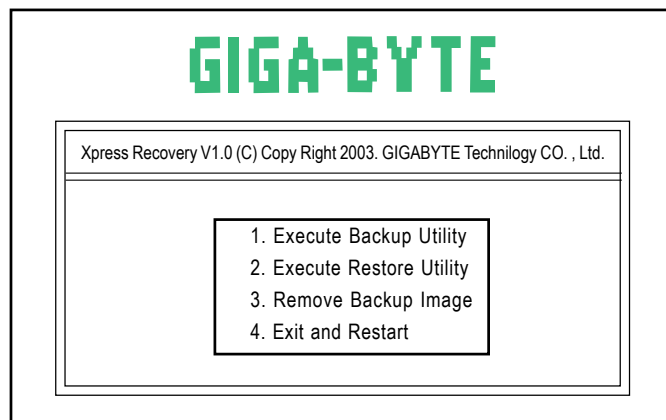
2. BMPモード: CD-ROMから起動

「ADVANCED BIOS」設定メニューをポイントし、CD-ROMから起動するように設定し、BIOSメニューを保存して終了します。その後、「CD-ROMから起動」が画面下部に表示されたら、ドライブにマザーボードドライブC Dを挿入し、どれかのキーを押してXpress Recoveryを起動します。

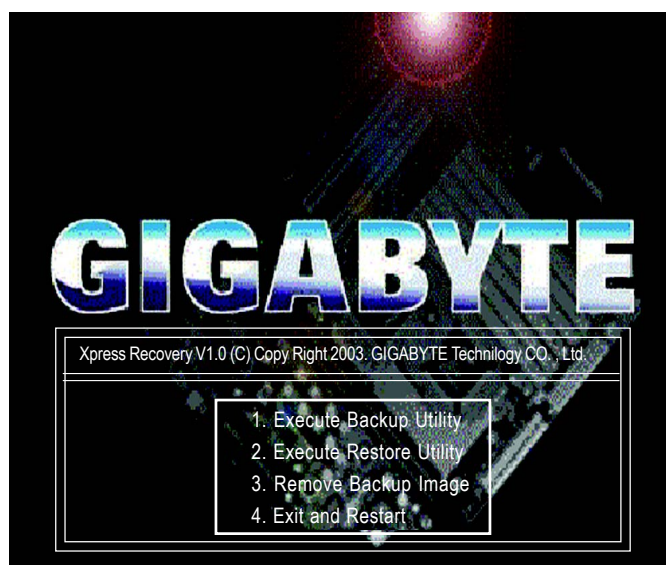


CDから起動:

キーボードの矢印キーを使用してアイテムを強調表示し、キーを入力することでメニューに入ることができます。
テキスト:



BMPモード:



CD-ROMから起動することによってXpress Recoveryを起動したことがある場合、起動画面でF9を押すとBMPモードが表示されます。

1. Execute Backup Utility (バックアップユーティリティの実行) :

✎ **Bを押すとシステムをバックアップし、ESCを押すと終了します**

バックアップユーティリティはシステムを自動的にスキャンし、それをバックアップします。

バックアップされたデータは非表示画像として保存されます。

2. Execute Restore Utility (回復ユーティリティの実行) :

✎ **このプログラムはシステムを初期設定に回復します。**

Rを押すとシステムを回復します。

Escを押すと終了します。

バックアップ画像をオリジナルの状態に回復します。

3. Remove Backup Image (バックアップ画像の削除) :

✎ **バックアップ画像を削除しますか? (Y/N)**

バックアップ画像を削除します。

4. Exit and Restart (終了して再起動) :

終了してコンピュータを再起動します。

[illegible]

日本語

[illegible]

第5章 付録

ドライバのインストール

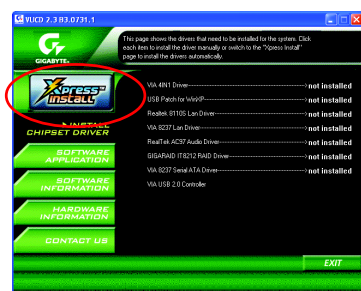


下の図は Windows XP で表示されます

マザーボードに付属するドライバCDタイトルをCD-ROMに挿入すると、CDタイトルが自動実行され、インストールガイドが表示されます。自動実行されない場合、[マイコンピュータ]のCD-ROMデバイスアイコンをダブルクリックして、setup.exeを実効してください。

チップセットドライバのインストール

このページには、システムにインストールする必要のあるドライバが表示されています。各アイテムをクリックしてドライバを手動でインストールするか、 に切り替えてドライバを自動的にインストールしてください。

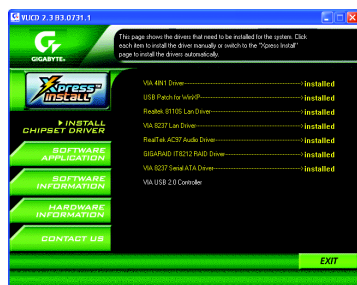


Xpress Install」は「クリックアンドフォゲット」技術を使用して、ドライバを自動的にインストールします。希望するドライバを選択し、「移動」ボタンをクリックしてください。 がユーザーに代わってインストールを自動的に終了します。



メッセージ: デバイスドライバの中には、システムを自動的に再起動するものがあります。その場合はシステムを再起動した後、「Xpress Install」が残りのドライバを引き続きインストールします。

リストのすべてのコンポーネントをインストールすることをおすすめします。



ドライバのインストールが完了しました。
システムを再起動してください。

アイテムの説明

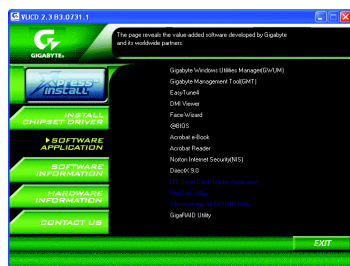
- VIA 4IN1 Driver
VIAチップセットドライバ
- USB Patch for WinXP
このパッチドライバにより、XPにおけるUSBデバイスの呼び起こしS3ハングアップ問題を解決することができます。
- Realtek 8110S Lan Driver (LAN1)
RealTek 10/100/1000 LANチップドライバ
- VIA 8237 Lan Driver (LAN2)
10/100 LANチップドライバ用
- Realtek AC97 Codec Driver
Realtekオーディオドライバ
- GIGARAID IT8212 RAID Driver
GigaRAID IT8212 RAID IDEコントローラ用
- VIA 8237 Serial ATA Driver
VIA 8237 SATAドライバ用
- VIA USB 2.0 Controller
USB 2.0ドライバ情報(XP 用)



USB 2.0 ドライバがWindows XP オペレーティングシステムをサポートしている場合は、Windows Service Pack を使用してください。Windows Service Pack のインストール後、「デバイスマネージャ」-「ユニバーサルシリアルバスコントローラ」の中に「？」マークが表示されますのでこのマークを削除し、システムを再起動してください。(システムは自動的に正しい USB 2.0 ドライバを検出します。)

ソフトウェアアプリケーション

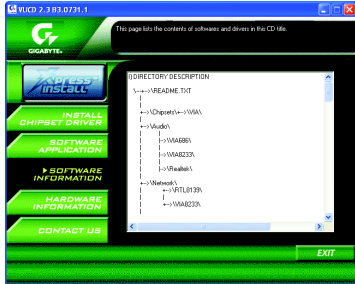
このページでは、Gigabyteとその全世界に及ぶパートナーが開発した付加価値ソフトウェアを表示します。



- Gigabyte Windows Utilities Manager (GWUM)
このユーティリティでGigabyteのアプリケーションをシステムトレイに統合できます。
- Gigabyte Management Tool (GMT)
ネットワークを介してコンピュータを管理できるお役立ちツールです。
- EasyTune 4
オーバークロックとハードウェアモニタリング機能を統合した強力なユーティリティです。
- DMI Viewer
システムのDMI/SMBIOS情報を参照するためのWindowsベースのユーティリティです。
- Face-Wizard
BIOSロゴ追加用の新しいユーティリティです。
- @BIOS
Gigabyte WindowsフラッシュBIOSユーティリティです。
- Acrobat e-Book
Adobe社製の役に立つユーティリティです。
- Acrobat Reader
PDFファイル形式文書を読み込むためのAdobe社製の人気ユーティリティです。
- Norton Internet Security (NIS)
ウィルス駆除、アドコントロールなどを含んだ総合ユーティリティです。
- DirectX 9.0
Microsoft DirectX 9をインストールすると3Dハードウェアアクセラレーションが有効になり、オペレーティングシステムは優れた3Dパフォーマンスを達成できるようになります。
- GigaRAID Utility
GigaRAID IT8212用RAIDユーティリティ

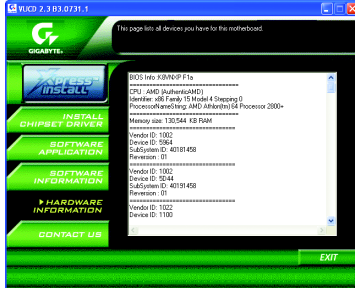
ソフトウェア情報

ここでは、CDタイトルに含まれるソフトウェアとドライバのリストが表示されます。



ハードウェア情報

ここでは、このマザーボードの全てのデバイスのリストが表示されます。



連絡先

詳細は最後のページをご覧ください。



Face-Wizard ユーティリティのインストール

Face-Wizard™ とは？

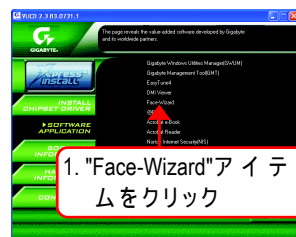
Face-Wizard™ は、使いやすいユーザーインターフェイスを備えたWindowsベースのユーティリティで、起動時のロゴをカスタマイズできます。ロゴデータは、Web サイトにある Gigabyte Logo Gallery から入手したり、その他互換性のある画像データを作成して利用します。

機能と動作

Face-Wizard™ は、ボード上の BIOS やハードドライブ、フロッピーディスク、ZIP、MO、その他の記憶装置にあるファイルを選択して、BIOS に互換性のある画像を結合します。さらに、Windows モードで BIOS のアップデートができます。

Face-Wizard™ を使う利点

独自の起動ロゴを作成し、白黒のそっけない起動画面を見ることはもはやありません。



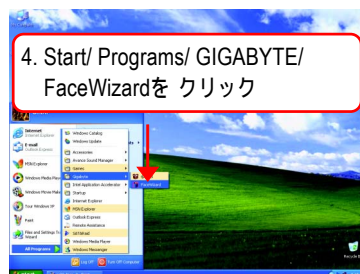
(1)



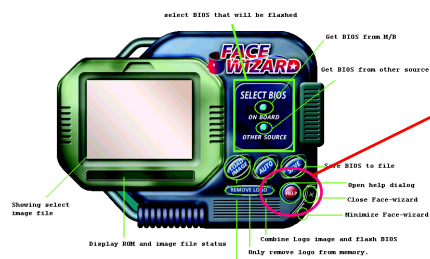
(2)



(3)



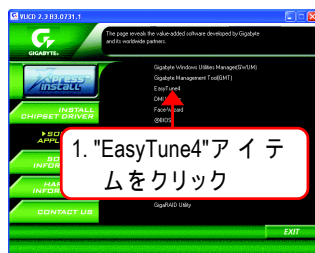
(4)



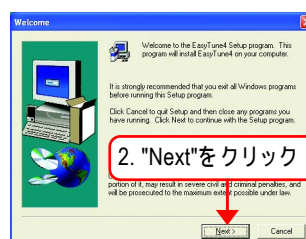
(5)

EasyTune 4 ユーティリティのインストール

オーバークロックとハードウェアモニタリング機能を統合した強力なユーティリティ



(1)



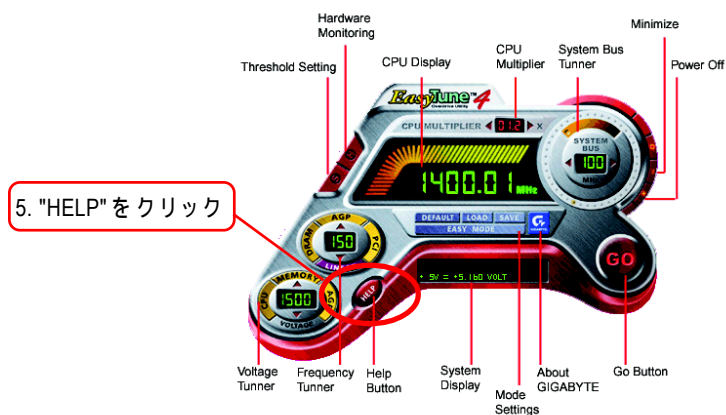
(2)



(3)



(4)



FAQ

下記はよくある質問集です。特定のマザーボードのモデルに対しての質問につきましては、<http://tw.giga-byte.com/faq/faq.htm> のホームページをご参照ください。

Q1: BIOSのアップデートを行った後に、いくつかのオプションが見えなくなってしまいました。なぜでしょうか？

A: いくつかのアドバンスドオプションは新しいBIOSの中に隠れています。CtrlキーとF1キーを押し、BIOS画面に入るとそのオプションを見ることができます。

Q2: なぜコンピュータの電源を切った後でもキーボードと光学マウスのライトが点灯しているのですか？

A: いくつかのボードではコンピュータの電源を切った後でも少量の電気でスタンバイ状態を保持しているので、点灯したままになっています。

Q3: EasyTune™ 4 で使えない機能があります。

A: 使用可能な EasyTune™ 4 の機能リストはマザーボードのチップセットに依存します。チップセットが EasyTune™ 4 のあるいくつかの機能をサポートしていない場合はそれらの機能は自動的にロックされ、使用することができません。

Q4: RAID 機能をサポートするボード上で、ブートHDDを IDE3またはIDE4に接続した後、Win 2000 と XP の環境に RAID と ATA のドライバのインストールができません。

A: ドライバをインストールする前に CD-ROM の中のいくつかのファイルをフロッピーディスクにコピーする必要があります。もしくは違うインストールのステップを踏んでみる必要もありますので、弊社のホームページの RAID マニュアルのインストールステップをご参照ください。
(http://tw.giga-byte.com/support/user_pdf/raid_manual.pdf)

Q5: CMOS をクリアするには？

A: ボードがクリア CMOS ジャンパを装備している場合はマニュアルのクリア CMOS ステップの部分をご参照ください。装備していない場合はオンボードのバッテリーを漏電させることで CMOS をクリアすることができます。下記のステップをご参照ください。

ステップ:

1. コンピュータの電源を切ります。
2. マザーボードからパワーコードを外します。
3. バッテリーを丁寧に取り外し、10 分ほどよけておきます(または金属製の物でバッテリーフォルダーの陽極と陰極をつなぎショートさせることも可能です)。
4. バッテリーを再度差し込みます。
5. マザーボードにパワーコードを再度接続し、コンピュータの電源を入れます。
6. Del キーを押し、BIOS のロードフェールセーフデフォルトに入ります。
7. 変更を保存し、システムを再起動します。

Q6: BIOS のアップデートを行った後にシステムが不安定になったように思われますが？

A: BIOS を表示させた後、フェールセーフデフォルト(もしくはロード BIOS デフォルト)をロードしてください。それでもシステムが不安定な場合は CMOS をクリアすることで問題を解決することができます。

Q7: なぜ最大音量でスピーカーをオンにしても弱い音しか聞こえてこないのでしょうか？

A: お使いのスピーカーが内蔵のアンプを使用しているかどうかを確認してください。もし使用していない場合には電源とアンプを装備した別のスピーカーに取り替えた後に再度お試しください。

Q8: 外付けのVGAカードを増設したいので、どうやってオンボードのVGAカードを無効に設定したらいいですか？

A: ギガバイトのマザーボードは自動的に外付けのVGAカードを検出しますので。オンボードVGAの設定を手動で無効にする必要はありません。

Q9: なぜIDE 2が使用できないのですか？

A: ユーザーマニュアルをご参照していただくか、前面USBパネルのUSB Over Currentピンに今接続されているケーブルがマザーボードパッケージによって供給されていないものかを確認してください。もしご自身でお持ちのケーブルを使用している場合はそれをこのピンから外し、自分のケーブルは接続しないでください。

Q10: システムを起動した後、コンピュータから時々違う連続性のビープ音が聞こえてくるのですが、この音は何を意味しているのでしょうか？

A: 下のビープ音のコードを参照してコンピュータに発生している問題を確認してください。ただし、これらは参考に過ぎません。ケースにより状況は異なります。

→AMI BIOSビープコード

*システムの起動に成功した場合はコンピュータは1回の短いビープ音を鳴らします

*コード8以外は致命的な問題があることを通知します。2短:CMOS設定エラー

1ビープ更新失敗

2ビープパリティエラー

3ビープ基本64Kメモリーフェイル

4ビープタイマが非動作

5ビーププロセッサエラー

6ビープ8042-ゲートA20フェイル

7ビーププロセッサの例外阻止エラー

8ビープメモリの読み込み/書き込み表示エラー

9ビープROM照合エラー

10ビープCMOSシャットダウン記録読み込み/書き込みエラー

11ビープキャッシュメモリ不具合

→AWARD BIOSビープコード

1短:システム起動成功

1長1短:DRAMまたはマザーボードエラー

1長2短:モニターまたはディスプレイカードエラー

1長3短:キーボードエラー

1長9短:BIOS ROMエラー

連続のビープ(長)DRAMエラー

連続のビープ(短)電源エラー

Q11: RAIDまたはATAモードでSATA HDDから起動するためにはBIOSをどのように設定したらいいのですか？

A: 次のようにBIOSを設定してください。

1. アドバンストBIOS機能->SATA/RAID/SCSI起動オーダー:"SATA"

2. アドバンストBIOS機能->最初の起動デバイス:"SCSI"

3. 統合周辺装置->オンボードH/WシリアルATA:"enable"

シリアルATA機能で"RAID"をRAIDモードにまたは"BASE"を標準のATAモードに設定する必要があるかどうかは、SATAモードによって異なります。

Q12: RAID機能を持つマザーボードの場合、RAIDまたはATAモードで、IDE3,4から起動するためにはBIOSをどのように設定すればいいのですか？

A: 次のようにBIOSを設定してください。

1. アドバンストBIOS機能->(SATA)/RAID/SCSI起動オーダー:"SATA"

2. アドバンストBIOS機能->最初の起動デバイス:"SCSI"

3. 統合周辺装置->オンボードH/W ATA/RAID:"enable"

RAIDコントローラ機能で"RAID"をRAIDモードにまたは"ATA"を標準のATAモードに設定する必要があるかどうかは、RAIDモードによって異なります。

Q13: IDE/SCSI/RAIDカードから起動するためにはBIOSをどのように設定すればいいのですか？

A: 次のようにBIOSを設定してください。

1. アドバンストBIOS機能->(SATA)/RAID/SCSI起動オーダー:"SCSI"

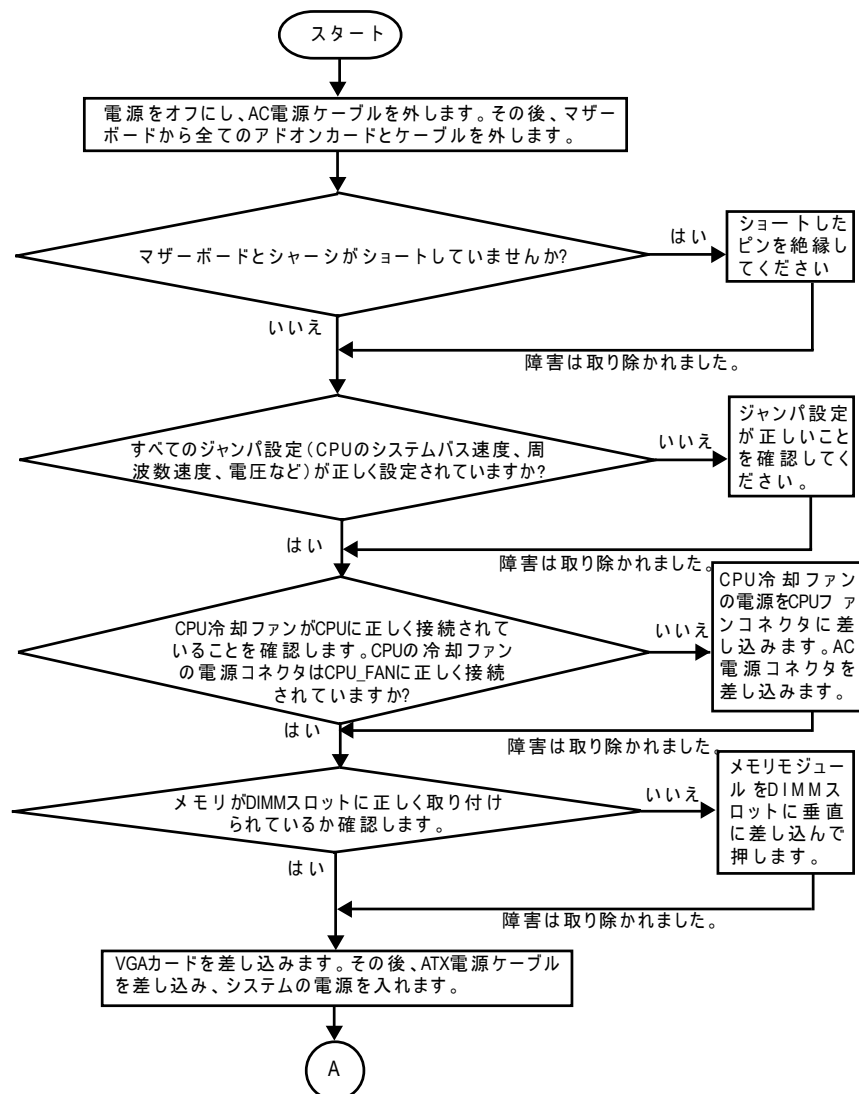
2. アドバンストBIOS機能->最初の起動デバイス:"SCSI"

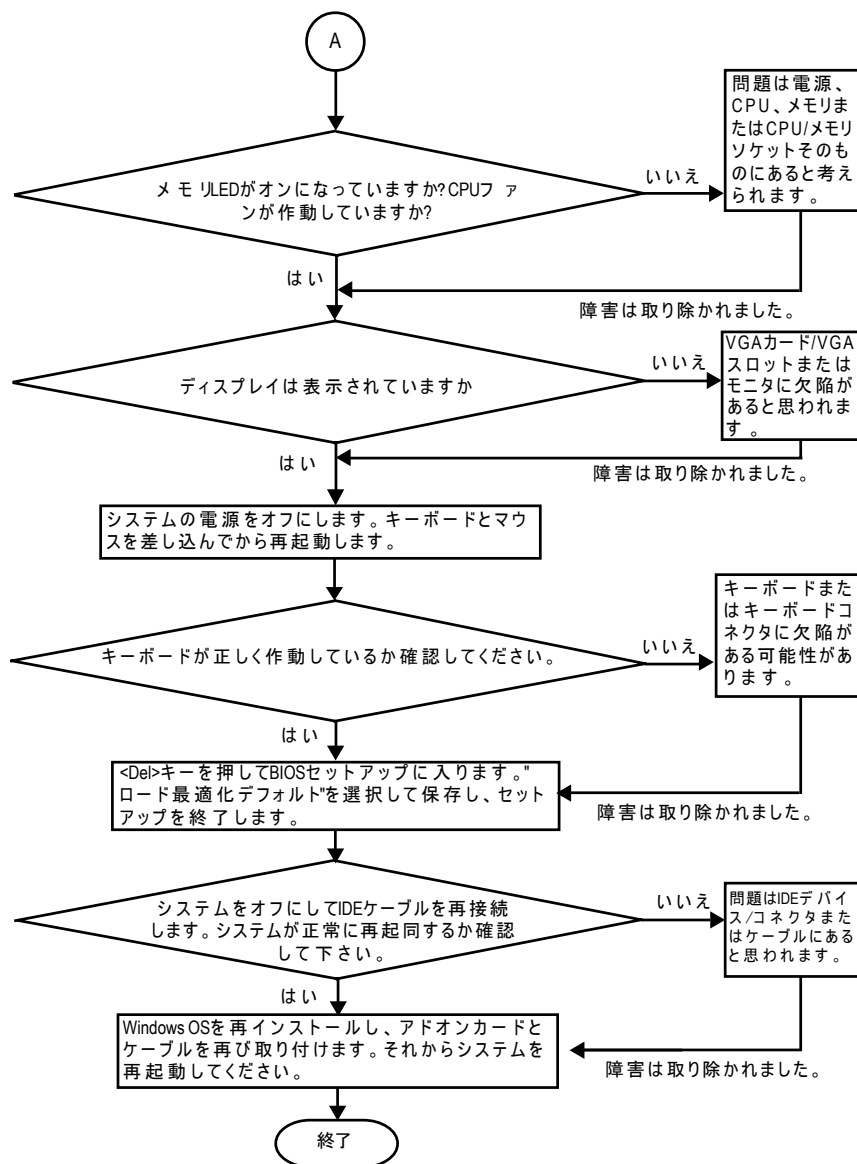
RAID/SCSI BIOSを設定する必要があるかどうかはモード(RAIDまたはATA)によって異なります。

トラブルシューティング



起動中に何らかの問題が生じた場合は、トラブルシューティングの手順に従ってください。





上記の手順で問題が解決できなかった場合、お近くの販売代理店または全国的販売業者までお問い合わせください。または、Gigabyteのウェブサイト(<http://www.gigabyte.com.tw>)のテクニカルサポートまで質問またはメールをして下さい。適切な返答を早急にお送りさせていただきます。

テクニカルサポート/RMAシート



顧客/国 :	会社 :	電話番号:
連絡窓口:	Eメールアドレス:	

型名/ロット番号:	PCBリビジョン:
BIOSバージョン:	O.S./A.S.:

ハードウェア 構成	メーカー	型名	サイズ:	ドライバ/ユーティリティ:
CPU				
メモリ ブランド				
ビデオカード				
オーディオカード				
HDD				
CD-ROM / DVD-ROM				
モデム				
ネットワーク				
AMR / CNR				
キーボード				
マウス				
電源装置				
その他のデバイス				

問題の詳細:



略語

略語	意味
ACPI	拡張構成/電源インターフェイス
APM	拡張電源管理
AGP	加速式グラフィックスポート
AMR	オーディオモデムライザ
ACR	拡張コミュニケーションライザ
BIOS	基本入出力システム
CPU	中央演算装置
CMOS	相補系金属酸化膜半導体
CRIMM	連続 RIMM
CNR	通信/ネットワークングライザ
DMA	直接メモリアクセス
DMI	デスクトップ管理インターフェイス
DIMM	デュアルインラインメモリモジュール
DRM	デュアルリテンションメカニズム
DRAM	ダイナミックランダムアクセスメモリ
DDR	ダブルデータレート
ECP	拡張機能ポート
ESCD	拡張システム構成データ
ECC	エラー検査/訂正
EMC	電磁気互換
EPP	エンハンスドパラレルポート
ESD	静電気放電
FDD	フロッピーディスクデバイス
FSB	フロントサイドバス
HDD	ハードディスクデバイス
IDE	統合デュアルチャンネルエンハンスド
IRQ	割り込み要求

続 く.....

略語	意味
IOAPIC	入出力拡張プログラマブル入力コントローラ
ISA	業界標準アーキテクチャ
LAN	構内通信網
I/O	入力/出力
LBA	論理ブロックアドレッシング
LED	発光ダイオード
MHz	メガヘルツ
MIDI	ミュージカルインストゥルメントデジタルインターフェイス
MTH	メモリトランスレータハブ
MPT	メモリプロトコルトランスレータ
NIC	ネットワークインターフェイスカード
OS	オペレーティングシステム
OEM	相手先商標製品製造
PAC	PCI A.G.P.コントローラ
POST	パワーオンセルフテスト
PCI	周辺装置コンポーネント相互接続
RIMM	ランバスインラインメモリモジュール
SCI	特殊環境指示
SECC	シングルエッジコンタクトカートリッジ
SRAM	静的ランダムアクセスメモリ

日本話

[illegible]

日本語

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

日 本 長 語

[illegible]

日本語

- 109 -

日 本 長 語

[illegible]

日本語

[illegible]

連絡窓口

全世界の弊社本支店へのお問い合わせはこのページをご参照ください。

• 台湾

Gigabyte Technology Co., Ltd.

住所: No.6, Bau Chiang Road, Hsin-Tien, Taipei Hsien, Taiwan, R.O.C.

電話: 886 (2) 8912-4888

ファックス: 886 (2) 8912-4004

Eメール:

当社では、お客様に迅速で役に立つメール返信サービスをご提供できるように常に努力しています。

ご質問がございましたら、次のトピックに分類してください。

それぞれの部署がお問い合わせに可及的速やかに対処いたします。ご協力ありがとうございます。

WEBアドレス: <http://tw.giga-byte.com>

• 米国

G.B.T. INC.

住所: 17358 Railroad St, City of Industry, CA 91748.

電話: 1 (626) 854-9338

ファックス: 1 (626) 854-9339

Eメール: sales@giga-byte.com

support@giga-byte.com

WEBアドレス: <http://us.giga-byte.com>

• ドイツ

G.B.T. Technology Trading GmbH

電話: 49-40-2533040

49-01803-428468 (Tech.)

ファックス: 49-40-25492343 (Sales)

49-01803-428329 (Tech.)

Eメール: support@gigabyte.de

WEBアドレス: <http://de.giga-byte.com>

• 日本

Nippon Giga-Byte Corporation

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.co.jp>

• 英国

G.B.T. TECH. CO. LTD.

電話: 44-1908-362700

ファックス: 44-1908-362709

Eメール: support@gbt-tech.co.uk

WEBアドレス: <http://uk.giga-byte.com>

• オランダ

Giga-Byte Technology B.V.

住所: Verdunplein 8 5627 SZ, Eindhoven, The Netherlands

電話: +31 40 290 2088

NL テクニカルサポート: 0900-GIGABYTE (0900-44422983, 0.2/M)

BE テクニカルサポート: 0900-84034 (0.4/M)

ファックス: +31 40 290 2089

Eメール: info@giga-byte.nl

技術サポートEメール: support@giga-byte.nl

WEBアドレス: <http://nl.giga-byte.com>

• 中国

上海支社

電話: 86-21-64737410

ファックス: 86-21-64453227

WEBアドレス: <http://cn.giga-byte.com>

広州支社

電話: 86-20-87586273

ファックス: 86-20-87544306

WEBアドレス: <http://cn.giga-byte.com>

北京支社

電話: 86-10-82856054

86-10-82856064

86-10-82856094

ファックス: 86-10-82856575

Eメール: bjsupport@gigabyte.com.cn

WEBアドレス: <http://cn.giga-byte.com>

成都支社

電話: 86-28-85236930

ファックス: 86-28-85256822

WEBアドレス: <http://cn.giga-byte.com>